

Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0
SNMP および IPMI 手順ガイド





Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 SNMP および IPMI 手順ガイド

Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

本書には、富士通株式会社により提供および修正された技術情報が含まれています。

Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。これらの製品、技術、および本書に対して Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社が有する知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品および技術は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。富士通株式会社と Sun Microsystems, Inc. およびそのライセンサーの書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものでもありません。本書は、富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者から富士通株式会社および / または Sun Microsystems, Inc. ヘラライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、一般ユーザーからのお申し込みに応じて入手可能です。富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun, Sun Microsystems, Sun のロゴ, Java, Netra, Solaris, Sun StorEdge, docs.sun.com, OpenBoot, SunVTS, SunSolve, CoolThreads, J2EE および Sun Fire は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. および富士通株式会社が SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。

SSH は、米国およびその他の特定の管轄区域における SSH Communications Security の登録商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、Sun Microsystems, Inc. が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。Sun Microsystems, Inc. は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。Sun Microsystems, Inc. は Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装しているかまたは Sun の書面によるライセンス契約を満たす Sun Microsystems, Inc. のライセンス実施権者にも適用されます。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Sun Microsystems, Inc. and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.

免責条項：本書または本書に記述されている製品や技術に関して富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限り、このような契約で明示的に規定された保証を除き、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. およびそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、現状のまま提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われたいものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のもとで第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われたいものとします。

原典:	Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 SNMP and IPMI Procedures Guide Manual Code: C120-E579-01EN
-----	--

目次

はじめに ix

1. SNMP の概要 1
 - 簡易ネットワーク管理プロトコルについて 2
 - SNMP の使用に向けたシステムの準備 3
 - SNMP コンポーネント 3
 - ILOM の SNMP MIB 4
2. ILOM の通信設定 9
 - 作業を開始する前に 10
 - ネットワークの設定 10
 - ▼ ホスト名およびシステム識別子の割り当て 11
 - ▼ ネットワーク設定の表示と構成 12
 - ▼ シリアルポート設定の表示と構成 17
 - ▼ HTTP および HTTPS の設定の表示と構成 19
 - ▼ IP アドレスの設定 20
 - Secure Shell の設定 24
 - ▼ 現在の鍵および鍵長の表示 24
 - ▼ SSH の有効化と無効化 25
 - ▼ 新しい SSH 鍵の生成 26
 - ▼ SSH サーバの再起動 27

- 3. ユーザーアカウントの管理 29
 - 作業を開始する前に 30
 - ユーザーアカウントの設定 31
 - ▼ ユーザーアカウントの設定 31
 - ▼ シングルサインオンの設定 33
 - Active Directory の設定 34
 - ▼ Active Directory 設定の表示と構成 35
 - ▼ Active Directory 管理者グループ設定の表示と構成 40
 - ▼ Active Directory オペレータグループ設定の表示と構成 41
 - ▼ Active Directory カスタムグループ設定の表示と構成 43
 - ▼ Active Directory ユーザードメイン設定の表示と構成 45
 - ▼ Active Directory 代替サーバ設定の表示と構成 47
 - ▼ 冗長設定の表示と構成 51
 - ▼ Active Directory DNS ロケータ設定の表示と構成 52
 - DNS ネームサーバの設定 54
 - ▼ DNS ネームサーバ設定の表示と構成 54
 - LDAP 用の ILOM 設定 55
 - ▼ LDAP の設定 56
 - LDAP/SSL 用の ILOM の設定 60
 - ▼ LDAP/SSL の設定 60
 - ▼ LDAP/SSL 証明書設定の表示と構成 64
 - ▼ LDAP/SSL 管理者グループ設定の表示と構成 65
 - ▼ LDAP/SSL オペレータグループ設定の表示と構成 66
 - ▼ LDAP/SSL カスタムグループ設定の表示と構成 68
 - ▼ LDAP/SSL ユーザードメイン設定の表示と構成 70
 - ▼ LDAP/SSL 代替サーバ設定の表示と構成 72
 - RADIUS の設定 75
 - ▼ RADIUS の設定 75

- 4. インベントリと部品の管理 79
 - 作業を開始する前に 80
 - 部品情報の表示 80
 - ▼ 部品情報の表示 80
 - システムセンサー、インジケータ、および ILOM イベントログの監視 82
 - ▼ クロック設定の表示と設定 82
 - ▼ ILOM イベントログの表示とクリア 84
 - ▼ 遠隔 syslog 受信側の IP アドレスの設定 86
 - ▼ 警告ルールの設定 87
 - 電子メール通知警告用の SMTP クライアントの設定 89
 - ▼ 電子メール通知警告用の SMTP クライアントの設定 89
 - 電子メール警告の設定 91
 - ▼ 電子メール警告設定の表示と構成 91
 - ▼ 遠隔測定ハーネスデーモン設定の表示と構成 92
- 5. 消費電力の監視 95
 - 作業を開始する前に 96
 - 消費電力インタフェースの監視 96
 - ▼ システムの合計消費電力の監視 97
 - ▼ 実際の消費電力の監視 97
 - ▼ 個々の電源装置の消費電力の監視 97
 - ▼ 使用可能な電力の監視 99
 - ▼ ハードウェア構成の最大消費電力の監視 99
 - ▼ 許容消費電力の監視 99
 - ▼ 電力管理設定の監視 99
 - 消費電力制御インタフェースの使用法 100
 - ▼ 電力ポリシーの表示と設定 101

- 6. ILOM ファームウェア設定の構成 103
 - 作業を開始する前に 104
 - ILOM ファームウェアインタフェースの設定 104
 - ▼ ILOM ファームウェア設定の表示と構成 104

- 7. ILOM 設定の管理 109
 - 作業を開始する前に 110
 - ILOM 設定管理インタフェースの設定 110
 - ▼ ポリシー設定の表示と構成 111
 - ▼ 電力設定の構成 112
 - ▼ バックアップおよび復元の設定の表示と構成 112
 - ▼ リセット設定の構成 114

- 8. SPARC システム設定の管理 115
 - 作業を開始する前に 116
 - SPARC 管理インタフェースの設定 116
 - ▼ SPARC 診断設定の表示と構成 117
 - ▼ SPARC ホスト設定の表示と構成 120
 - ▼ SPARC 起動モード設定の表示と構成 124
 - ▼ SPARC キースイッチ設定の表示と構成 125

- 9. IPMI の概要 129
 - インテリジェントプラットフォーム管理インタフェースについて 130
 - IPMItool 131
 - IPMI 警告 131
 - IPMI の状態の設定 132
 - ▼ CLI を使用した IPMI の状態の有効化 132
 - ▼ Web インタフェースを使用した IPMI の状態の有効化 133

IPMItool を使用した ILOM CLI コマンドの実行	133
作業を開始する前に	133
▼ IPMItool からの ILOM CLI へのアクセス	134
▼ IPMItool を使用した ILOM CLI コマンドのスク립ト化	134
IPMItool の例	135
▼ センサーとその値の一覧を表示する	136
▼ 1 つのセンサーの詳細を表示する	137
▼ ホストの電源を入れる	137
▼ ホストの電源を切る	137
▼ ホストの電源を再投入する	137
▼ ホストを正常に停止する	137
▼ FRU の製造情報を表示する	138
▼ システムイベントログを表示する	139
IPMI コマンド	140
索引	143

はじめに

『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 SNMP および IPMI 手順ガイド』では、簡易ネットワーク管理プロトコル (Simple Network Management Protocol, SNMP) を使用して ILOM の機能にアクセスするために必要な手順の実行方法について説明します。また、Intelligent Platform Management Interface (IPMI) を使用して ILOM の機能にアクセスするための手順についても説明します。

本書は、ネットワークングの概念および基本的なシステム管理プロトコルについての知識があるシステム管理者を対象にしています。

注 - 本書の説明は、ILOM をサポートするサーバに限定されます。「すべてのサーバプラットフォーム」という説明は、ILOM をサポートしている富士通製のすべてのサーバを指します。使用するサーバによっては、ILOM の一部の機能がサポートされていないことがあります。ILOM の補足マニュアルと各サーバのプロダクトノートを事前に確認してください。

安全な使用のために

このマニュアルには当製品を安全に使用していただくための重要な情報が記載されています。当製品を使用する前に、このマニュアルを熟読してください。また、このマニュアルは大切に保管してください。

富士通は、使用者および周囲の方の身体や財産に被害を及ぼすことなく安全に使っていただくために細心の注意を払っています。本製品を使用する際は、マニュアルの説明に従ってください。

関連マニュアル

本書で説明されている情報を完全に理解するには、本書を次の表に示すマニュアルと一緒に使用することをお勧めします。SPARC Enterprise シリーズのすべてのマニュアルの最新版は、次の Web サイトから入手できます。

グローバルサイト

<http://www.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

日本語サイト

<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

まず、『ILOM 3.0 概念ガイド』を読み、ILOM の特徴と機能を理解してください。ILOM がサポートしている新しいシステムをセットアップするには、『ILOM 3.0 入門ガイド』を参照してください。ここでは、ネットワークに接続する手順、ILOM への初回ログイン手順、ユーザーアカウントやディレクトリサービスを設定する手順が記載されています。その後、その他の ILOM タスクを実行するために使用する ILOM インタフェースを決定してください。インタフェースが決定したら、選択したインタフェース用の ILOM 3.0 手順ガイドを参照してください。

次の表に、ILOM 3.0 に関する各種マニュアルを示します。

タイトル	説明	コード
Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド	ILOM の特徴および機能に関する情報	C120-E573
Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 入門ガイド	ネットワーク接続、ILOM への初回ログイン、およびユーザーアカウントやディレクトリサービスの設定に関する情報および手順	C120-E576
Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド	ILOM Web インタフェースを使用して ILOM 機能にアクセスするための情報および手順	C120-E574
Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド	ILOM CLI を使用して ILOM 機能にアクセスするための情報および手順	C120-E575
Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 SNMP および IPMI 手順ガイド	SNMP または IPMI 管理ホストを使用して ILOM 機能にアクセスするための情報および手順	C120-E579

ILOM 3.0 の各種マニュアルに加えて、関連する ILOM 補足マニュアルに、使用しているサーバプラットフォームに固有の ILOM 機能およびタスクが記載されています。ILOM 3.0 の各種マニュアルと、使用しているサーバプラットフォームに付属の ILOM 補足マニュアルと一緒に使用してください。

ILOM 3.0 のバージョン番号

ILOM 3.0 では、システムで動作している ILOM のバージョンを識別しやすいように、新しいバージョン番号体系が採用されています。この番号体系では、たとえば、a.b.c.d.e のように、5 つのフィールドを持つ文字列が使用されます。

- a – ILOM のメジャーバージョンを表します。
- b – ILOM のマイナーバージョンを表します。
- c – ILOM の更新バージョンを表します。
- d – ILOM のマイクロバージョンを表します。マイクロバージョンは、プラットフォームまたはプラットフォームグループごとに管理されます。詳細については、使用しているプラットフォームのプロダクトノートを参照してください。
- e – ILOM のナノバージョンを表します。ナノバージョンは、マイクロバージョンの増分イテレーションです。

たとえば、ILOM 3.1.2.1.a は、次のような意味になります。

- ILOM 3 は ILOM のメジャーバージョン
- ILOM 3.1 は ILOM 3 のマイナーバージョン
- ILOM 3.1.2 は ILOM 3.1 の 2 つ目の更新バージョン
- ILOM 3.1.2.1 は ILOM 3.1.2 のマイクロバージョン
- ILOM 3.1.2.1.a は ILOM 3.1.2.1 のナノバージョン

製品識別情報

製品識別情報により、システムは、それ自体を登録し、その識別情報に関連付けられたサービス契約に基づいて特定の自動サービスを使用できるようになります。製品識別情報を使用すると、システムを特定することができます。また、システムに関するサービスを依頼する際には、保守担当者に製品識別情報を提供する必要があります。製品識別情報には、次の情報が含まれます。

- `product_name`: 製品の販売名。
- `product_part_number`: 製品が固有のシリアル番号を持つように製造時に割り当てられるネームスペース。同じ製品パーツ番号が複数の製品に割り当てられることはありません。「602-3098-01」などです。
- `product_serial_number`: 製造時に製品の各インスタンスに割り当てられる固有の識別情報。「0615AM0654A」などです。
- `product_manufacturer`: 製品の製造元。「FUJITSU」などです。

表 P-1 では、ILOM で使用される共通の製品識別情報について説明します。

表 P-1 共通の製品識別情報

必要な情報	ターゲット	最小プロパティ
サーバ (ラック搭載型およびブレード) に関する基本製品情報	/SYS	<code>product_name</code> <code>product_part_number</code> <code>product_serial_number</code> <code>product_manufacturer</code>
シャーシ監視モジュール (Chassis Monitoring Module、CMM) に関する基本製品情報	/CH	<code>product_name</code> <code>product_part_number</code> <code>product_serial_number</code> <code>product_manufacturer</code>
ブレードに関する基本シャーシ情報	/SYS/MIDPLANE	<code>product_name</code> <code>product_part_number</code> <code>product_serial_number</code> <code>product_manufacturer</code>
シャーシ内でのブレードの位置	/SYS/SLOTID	<code>type</code> <code>class</code> <code>value</code>
ラック内でのシャーシの位置	/CH	<code>rack_location</code>

書体と記号について

書体または記号*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	<code>.login</code> ファイルを編集します。 <code>ls -a</code> を実行します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	% su Password:
AaBbCc123	コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。	<code>rm filename</code> と入力します。
『』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「ILOM ファームウェア設定の構成」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING`

* 使用しているブラウザにより、これらの設定と異なって表示される場合があります。

ご意見をお寄せください

本書に関するご意見、ご要望または内容に不明確な部分がありましたら、マニュアル番号、マニュアル名称、ページおよび具体的な内容を下記 URL の『お問い合わせ』から送付してください。

SPARC Enterprise マニュアルのサイト

<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

パート I SNMP

このガイドのパート I では、簡易ネットワーク管理プロトコル (Simple Network Management Protocol、SNMP) の概要を紹介し、ILOM の機能へのアクセス手順について説明します。

第1章

SNMP の概要

項目

説明	リンク
SNMP、SNMP コンポーネント、および SNMP MIB について	<ul style="list-style-type: none">• 2 ページの「簡易ネットワーク管理プロトコルについて」
SNMP、SNMP コンポーネント、および SNMP MIB を使用できるようにシステムを準備する方法について説明します。	<ul style="list-style-type: none">• 3 ページの「SNMP の使用に向けたシステムの準備」• 3 ページの「SNMP コンポーネント」• 4 ページの「ILOM の SNMP MIB」

関連項目

ILOM に関する項目	節	ガイド
• 概念	• ILOM の概要	『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』
• CLI	• CLI の概要	『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』
• Web インタフェース	• Web インタフェースの概要	『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』
• IPMI	• IPMI の概要	『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 SNMP および IPMI 手順ガイド』

ILOM 3.0 の各種マニュアルは、
<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/> で入手できます。

簡易ネットワーク管理プロトコルについて

ILOM は、簡易ネットワーク管理プロトコル (Simple Network Management Protocol, SNMP) をサポートしています。SNMP は、ネットワークアクティビティに関するデータの交換に使用されます。SNMP は、ネットワーク、およびネットワークに接続されたデバイスやノードの管理を可能にする業界標準のオープンなプロトコル技術です。SNMP を使用して、ネットワークアクセスが可能な管理対象デバイス (ノード) と管理ステーションとの間でデータがやりとりされます。管理対象デバイスには、ホストやルーター、Web サーバ、またはネットワーク上のその他のサーバなどの、SNMP が動作しているいずれのデバイスも含まれます。SNMP メッセージは、ユーザーデータグラムプロトコル (User Datagram Protocol, UDP) を使用して IP 経由で送信されます。SNMP をサポートする管理アプリケーションならサーバを管理できます。

SNMP の詳しい説明については、次の Web サイトで入手できる 5 パート構成の SNMP 入門チュートリアルを参照してください。

http://www.dpstele.com/layers/l2/snmp_l2_tut_part1.php

ILOM は、SNMP のバージョン 1、2c、および 3 をサポートしています。SNMP v3 は、SNMP v1 や v2c に比べセキュリティー、認証機能、およびプライバシー機能が強化されているため、SNMP v3 の使用を強くお勧めします。

SNMP はアプリケーションではなくプロトコルであるため、SNMP メッセージを使用するにはアプリケーションが必要です。使用している SNMP 管理ソフトウェアがこの機能を提供している場合があります。Net-SNMP などのオープンソースツールも使用できます。Net-SNMP は、次の Web サイトからダウンロードできます。

<http://net-snmp.sourceforge.net/>

注 – このガイドは、SNMP を実際に使ったことがありその体験に基づく SNMP の知識がある ILOM ユーザーを対象にしています。このガイドでは、SNMP の使用例として、SNMP のクライアント側コマンドを使用します。SNMP を実際に使った経験がない場合は SNMP についての知識があっても、<http://net-snmp.sourceforge.net/wiki/index.php/Tutorials> からダウンロードできるチュートリアルを最後まで読んでください。このチュートリアルの内容は、上記の入門用チュートリアルよりも高度です。

SNMP の使用に向けたシステムの準備

SNMP を使用できるようにシステムを準備するには、使用している管理ステーションのオペレーティングシステムで機能する Net-SNMP の最新バージョン (バージョン 5.2.1 以降) または選択した SNMP ツールをダウンロードしてインストールする必要があります。

SNMP を使用できるようにシステムを準備する方法については、次のいずれかのガイドを参照してください。

- 『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』
- 『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』

SNMP コンポーネント

SNMP の機能には、次の 2 つのコンポーネントが必要です。

- ネットワーク管理ステーション – ネットワーク管理ステーションは、管理対象ノードを監視および制御する管理アプリケーションのホストになります。
- 管理対象ノード – 管理対象ノードは、SNMP 管理エージェントをホストする、サーバ、ルーター、ハブなどのデバイスで、ILOM を実行しているサービスプロセッサ (Service Processor, SP) などの管理ステーションからの要求を実行します。管理対象ノードは、トラップという形式で、状態が未承諾の情報を管理ステーションに提供することもできます。

SNMP は、管理ステーションとエージェントの間で管理情報をやりとりするために使用されるプロトコルです。

SNMP エージェントはサーバプラットフォームにプリインストールされており、ILOM で実行されるため、すべての SNMP 管理は ILOM から行われます。この機能を使用するには、使用しているオペレーティングシステムに SNMP クライアントアプリケーションが必要です。

管理ステーションおよびエージェントはどちらも SNMP メッセージを使用してやりとりを行います。管理ステーションは、情報の送受信が可能です。エージェントは要求に応答し、トラップの形式で未承諾メッセージを送信できます。管理ステーションおよびエージェントは、次の機能を使用します。

- Get (取得)
- GetNext (次を取得)
- GetResponse (応答を取得)
- Set (設定)
- Trap (トラップ)

ILOM の SNMP MIB

SNMP 実装の基本コンポーネントは、管理情報ベース (Management Information Base、MIB) です。MIB は、管理対象ノードの入手可能な情報を記述したテキストファイルです。このツリー形式の階層システムは、ネットワーク内のリソースに関する情報を、それぞれ固有の識別子 (オブジェクト ID) が付けられたデータオブジェクトのリストとして分類します。このようにして、MIB は SNMP エージェントがアクセスできるデータオブジェクト、すなわち変数を定義します。管理ステーションが管理ノードからの情報を要求すると、そのエージェントは、そのリクエストを受信し、MIB から該当する情報を取得します。ILOM では、MIB によって、サーバのネットワーク設定や状態、統計データにアクセスが可能になります。

SNMP MIB の詳細については、『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』の「ILOM インタフェース」を参照してください。

図 1-1 に、標準的な MIB ツリーおよびそのツリー内の ILOM MIB モジュールの位置を示します。ILOM MIB モジュールは、太字で強調しています。

図 1-1 ILOM MIB モジュールの位置

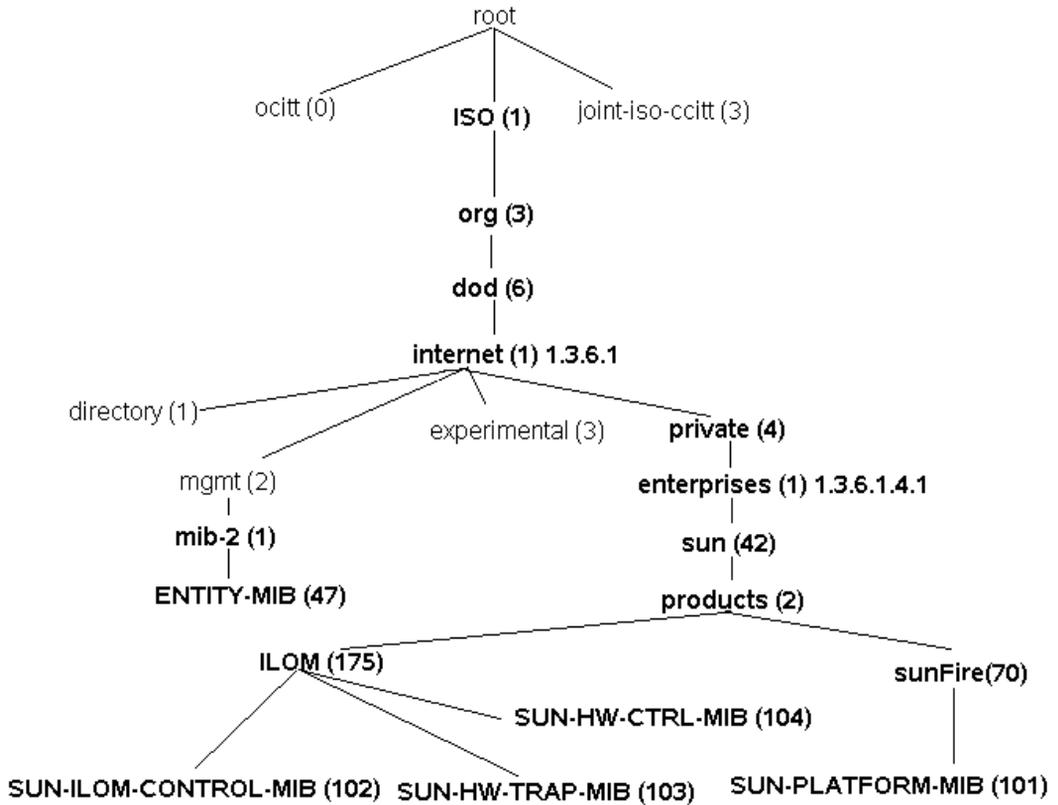


表 1-1 に、ILOM MIB モジュールの説明と、各 MIB 名に対応するオブジェクト ID を示します。

表 1-1 ILOM で使用される SNMP MIB

MIB 名	説明	MIB オブジェクト ID
ENTITY-MIB	1 つの SNMP エージェントがサポートする複数の物理エンティティを表す MIB モジュール。 注 - entPhysicalTable は、実装されているこの MIB の一部に過ぎません。	1.3.6.1.2.1.47
SUN-HW-CTRL-MIB	この MIB により、ILOM を使用するすべてのプラットフォームデバイスを制御できます。 注 - この MIB の電源管理部分だけが実装されています。	1.3.6.1.4.1.42.2.175.104
SUN-HW-TRAP-MIB	この MIB は、システムにより生成されるハードウェア関連の通知/トラップを記述します。	1.3.6.1.4.1.42.2.175.103
SUN-ILOM-CONTROL-MIB	この MIB は、すべての ILOM 機能を設定および管理するためのオブジェクトを提供します。この MIB では、権限付与、認証、ログ記録、サービス、ネットワークワーキング、ファームウェア管理などの機能を設定できます。	1.3.6.1.4.1.42.2.175.102
SUN-PLATFORM-MIB	この MIB は、ENTITY-MIB (RFC 2737) に対する拡張を提供します。ENTITY-MIB では、システムでモデル化された各エンティティが、entPhysicalTable に対する拡張という方法で表現されます。	1.3.6.1.4.1.42.2.70.101

表 1-2 にリストされている標準 MIB の一部は、ILOM によって実装されます。

表 1-2 ILOM が実装する標準 MIB

MIB 名	説明	MIB オブジェクト ID
IF-MIB	ネットワークインタフェースのサブレイヤ用の汎用オブジェクトを記述する MIB モジュール。この MIB は、MIB-II の ifTable の更新バージョンで、RFC 1229 で定義された拡張を組み込んでいます。	1.3.6.1.2.1.31
IP-MIB	IP 実装および ICMP 実装を管理するための MIB モジュール。ただし、IP 経路の管理は除外されています。	1.3.6.1.2.1.4.
SNMP-FRAMEWORK-MIB	SNMP 管理アーキテクチャー MIB。	1.3.6.1.6.3.10
SNMPv2-MIB	SNMP エンティティ用の MIB モジュール。 注 - この MIB モジュールからはシステムグループおよび SNMP グループだけが ILOM に適用されます。	1.3.6.1.6.3.1
TCP-MIB	TCP 実装を管理するための MIB モジュール。	1.3.6.1.2.1.49
UDP-MIB	UDP 実装を管理するための MIB モジュール。	1.3.6.1.2.1.50

表 1-3 では、ILOM SNMP 実装のサポートに使用される MIB について説明します。

表 1-3 ILOM SNMP 実装のサポートに使用される MIB

MIB 名	説明	MIB オブジェクト ID
HOST-RESOURCES-MIB	この MIB は、ホストシステムの管理で使用されます。この MIB は、たとえば、UNIX 系のオペレーティングシステムを実行するパーソナルコンピュータとシステムの両方など、すべてのインターネットホストに共通の属性をサポートします。	1.3.6.1.2.1.25.1
IANAifType-MIB	この MIB モジュールは、IANAifType のテキストの表記法を定義し、それに基づいて MIB-II の ifTable で定義される ifType オブジェクトの列挙値を定義します。	1.3.6.1.2.1.30
NOTIFICATION-LOG-MIB	この MIB モジュールは、SNMP 通知 (トラップ) の記録に使用されます。	1.3.6.2.1.92.1.1.3
SNMP-MPD-MIB	この MIB モジュールは、メッセージの処理と発信に使用されます。	1.3.6.1.6.3.11
SNMPv2-TM	この MIB モジュールは、SNMP トランスポートマッピングに使用されます。	1.3.6.1.6.3.19
SNMPv2-SMI	この MIB モジュールは、管理情報、バージョン 2 の構造についての定義を含みます。	1.3.6.1.6

第2章

ILOM の通信設定

項目

説明	リンク
準備すべき事柄を確認する	<ul style="list-style-type: none">• 10 ページの「作業を開始する前に」
ネットワークの設定	<ul style="list-style-type: none">• 11 ページの「ホスト名およびシステム識別子の割り当て」• 12 ページの「ネットワーク設定の表示と構成」• 17 ページの「シリアルポート設定の表示と構成」• 19 ページの「HTTP および HTTPS の設定の表示と構成」• 20 ページの「IP アドレスの設定」
Secure Shell の設定	<ul style="list-style-type: none">• 24 ページの「現在の鍵および鍵長の表示」• 25 ページの「SSH の有効化と無効化」• 26 ページの「新しい SSH 鍵の生成」• 27 ページの「SSH サーバの再起動」

関連項目

ILOM に関する項目	節	ガイド
• 概念	• ILOM のネットワーク設定とログイン要件	『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』
• CLI	• ILOM の通信設定	『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』
• Web インタフェース	• ILOM の通信設定	『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』

ILOM 3.0 の各種マニュアルは、
<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/> から入手できます。

作業を開始する前に

この章の手順を開始する前に、必ず、次の要件が満たされていることを確認してください。

- `snmpset` コマンドを実行するには、SNMP v1 または v2c コミュニティーあるいは読み取り/書き込み (`rw`) 権限を持つ SNMP v3 のユーザーを使用する必要があります。
- SNMP を使用して ILOM の設定を表示および構成するには、事前に SNMP を設定する必要があります。詳細は、10 ページの「[ネットワークの設定](#)」を参照してください。

注 – この章に掲載されているサンプル SNMP コマンドは Net-SNMP サンプルアプリケーションに基づいているため、説明どおりに機能するのは Net-SNMP および Net-SNMP サンプルアプリケーションがインストールされている場合だけです。

ネットワークの設定

項目

説明

リンク

ネットワークの設定

- [11 ページの「ホスト名およびシステム識別子の割り当て」](#)
 - [12 ページの「ネットワーク設定の表示と構成」](#)
 - [17 ページの「シリアルポート設定の表示と構成」](#)
 - [19 ページの「HTTP および HTTPS の設定の表示と構成」](#)
 - [20 ページの「IP アドレスの設定」](#)
-

この節では、SNMP インタフェースを使用して ILOM のネットワークパラメータを設定する方法について説明します。

Net-SNMP サンプルアプリケーションを使用している場合は、`snmpget` コマンドおよび `snmpset` コマンドを使用して、ネットワーク設定の表示および構成を実行できます。

▼ ホスト名およびシステム識別子の割り当て

作業を開始する前に

- get コマンドおよび set コマンドを使用して、ホスト名およびシステム識別子の MIB オブジェクト設定の表示および構成を実行できます。この手順で使用する MIB オブジェクトの説明については、[12 ページの「ホスト名およびシステム識別子の MIB オブジェクト」](#)を参照してください。

次の手順に従って、ホスト名およびシステム識別子を割り当てます。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
```

```
Password: password
```

2. ホスト名を取得するには、次のように入力します。

```
% snmpget -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress ilomCtrlHostName.0
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlHostName.0 = STRING: wgs97-218
```

3. ホスト名を設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlHostName.0 s wgs97-200
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlHostName.0 = STRING: wgs97-200
```

4. システム識別子を取得するには、次のように入力します。

```
% snmpget -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlSystemIdentifier.0
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlSystemIdentifier.0 = STRING: none
```

5. システム識別子を設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlSystemIdentifier.0 s wgs97-200
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlSystemIdentifier.0 = STRING: wgs97-200
```

ホスト名およびシステム識別子の MIB オブジェクト

ホスト名およびシステム識別子では、次の MIB オブジェクト、値、およびタイプが有効です。

表 2-1 ホスト名およびシステム識別子の設定で有効な MIB オブジェクト、値、およびタイプ

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlHost Name	ILOM のホスト名。	ホスト名 (文字 数: 0 ~ 255)	文字列	none
ilomCtrlSystem Identifier	ILOM が生成したすべてのトラッ プで、varbind に載せて送信され る識別子。この文字列は、多くの 場合、ILOM に関連付けられた サーバのホスト名になります。	システム識別子 (文字数: 0 ~ 255)	文字列	none

▼ ネットワーク設定の表示と構成

作業を開始する前に

- この手順で使用される MIB オブジェクトの説明については、[15 ページの「ネットワーク設定 MIB オブジェクト」](#) および [SUN-ILOM-CONTROL-MIB](#) を参照してください。

次の手順に従って、ネットワーク設定を表示および構成します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。
たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
```

```
Password: password
```

2. ネットワークターゲットの名前および現在のネットワーク設定を判定するには、次のように入力します。

```
% snmpwalk -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress ilomCtrlNetwork
```

このコマンドを実行すると、次の情報が表示されます。

```
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlNetworkMacAddress."/SP/network" = STRING:
00:14:4F:0E:23:B8
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlNetworkIpDiscovery."/SP/network" = INTEGER:
static(1)
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlNetworkIpAddress."/SP/network" = IpAddress:
ipaddress
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlNetworkIpGateway."/SP/network" = IpAddress:
ipaddress
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlNetworkIpNetmask."/SP/network" = IpAddress:
ipaddress
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlNetworkPendingIpDiscovery."/SP/network" =
INTEGER: static(1)
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlNetworkPendingIpAddress."/SP/network" =
IpAddress: ipaddress
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlNetworkPendingIpGateway."/SP/network" =
IpAddress: ipaddress
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlNetworkPendingIpNetmask."/SP/network" =
IpAddress: ipaddress
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlNetworkCommitPending."/SP/network" = INTEGER:
false(2)
```

上記の例で表示されるネットワークターゲットの名前は、「SP/network」です。

3. 「/SP/network」という名前のネットワークターゲットの現在のネットワーク IP アドレスを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlNetworkIpAddress."/SP/network"
```

4. 新しいネットワーク IP アドレスを指定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlNetworkPendingIpAddress."/SP/network" s 10.300.10.15
```

5. 新しいネットワーク IP アドレスを有効にするには、次のように入力します。

```
% snmpset -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlNetworkCommitPending."/SP/network" i 1
```

6. ほかの例については、次の各 SNMP コマンドを参照してください。

- 帯域外管理インタフェースの MAC アドレス (該当する場合) を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlNetworkOutOfBandMacAddress.0
```

- サイドバンド管理インタフェースの MAC アドレス (該当する場合) を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlNetworkSidebandMacAddress.0
```

- 指定されたターゲットの保留中の管理ポートを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlNetworkPendingManagementPort.TARGET_INTERFACE
```

- 指定されたターゲットの保留中の管理ポートを設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlNetworkPendingManagementPort.TARGET_INTERFACE s  
'pendingmanagementport'
```

注 – このプロパティー設定は、指定された行で `ilomCtrlNetworkCommitPending` プロパティーが `true` (真) に設定されるまでは有効になりません。

- 指定されたターゲットの現在の管理ポートを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlNetworkkgManagementPort.0
```

- 指定されたターゲットの現在の管理ポートを設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlNetworkManagementPort.0 s 'managementport'
```

- この行の DHCP サーバのアドレスを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlNetworkDHCPServerAddr.0
```

- ネットワークの状態を示す行が有効かどうかを確認するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlNetworkState.0
```

- ネットワークの状態を示す行を有効にするには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlNetworkState.0 i 1
```

ネットワーク設定 MIB オブジェクト

ネットワーク設定では、次の MIB オブジェクト、値、およびタイプが有効です。

表 2-2 ネットワーク設定で有効な MIB オブジェクト、値、およびタイプ

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlNetworkTarget	設定可能なネットワークを備えるターゲットの命名法に基づく名前です。一部のシステムでは、ネットワークを備えるターゲットが複数あります。ラック搭載型のスタンドアロンサーバでは、この表には、命名法に基づき「/SP」が付けられたサービスプロセッサのネットワーク設定に関する行が 1 行だけ含まれることとなります。ブレードシステムの場合、この表には複数の行が含まれます。ブレードのサービスプロセッサごとに 1 行が存在することとなります。ブレードのサービスプロセッサには、命名法に基づき、たとえば、「/CH/BL0/SP」、 「CH/BL1/SP」の形式で順番に名前が付けられます。 注 - このオブジェクトにはアクセスできません。	network_target_name	文字列	none
ilomCtrlNetworkMacAddress	サービスプロセッサの MAC アドレスを示します。 注 - このオブジェクトは、読み取り専用です。	MAC_address	文字列	none

表 2-2 ネットワーク設定で有効な MIB オブジェクト、値、およびタイプ (続き)

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlNetwork IPDiscovery	現在のターゲットが静的 IP 設定が割り当てられるように設定されているか、または DHCP から動的に取得されているかを示します。 注 - このオブジェクトは、読み取り専用です。	static(1), dynamic(2)	整数型	none
ilomCtrlNetwork IpAddress	指定されたターゲットの現在の IP アドレスを示します。 注 - このオブジェクトは、読み取り専用です。	IP adress	文字列	none
ilomCtrlNetwork IpGateway	指定されたターゲットの現在の IP ゲートウェイを示します。 注 - このオブジェクトは、読み取り専用です。	ip_gateway	文字列	none
ilomCtrlNetwork IpNetmask	指定されたターゲットの現在の IP ネットマスクを示します。 注 - このオブジェクトは、読み取り専用です。	ip_netmask	文字列	none
ilomCtrlNetwork PendingIp Discovery	このオブジェクトは、指定されたターゲットの IP 検出モードに保留中の値を設定するために使います。設定できる値は、静的(1)または動的(2)です。静的な値を指定するには、次に示すこの表のほかの申請中のプロパティを設定する必要があります。 ilomCtrlNetworkPendingIp-Address、 ilomCtrlNetworkPendingIp-Gateway、および ilomCtrlNetworkPendingIpNetmask。動的を指定する場合は、ほかの申請中のプロパティは設定しないでください。この設定は、指定された行の ilomCtrlNetworkCommitPending プロパティが true (真) に設定されるまで有効になりません。	static(1), dynamic(2)	整数型	none
ilomCtrlNetwork PendingIp Address	このオブジェクトは、指定されたターゲットの保留中 IP アドレスの設定に使用します。この設定は、指定された行の ilomCtrlNetworkCommitPending プロパティが true (真) に設定されるまで有効になりません。	pending_ip_address	文字列	none
ilomCtrlNetwork PendingIp Gateway	このオブジェクトは、指定されたターゲットの保留中 IP ゲートウェイの設定に使用します。この設定は、指定された行の ilomCtrlNetworkCommitPending オブジェクトが true (真) に設定されるまで有効になりません。	pending_ip_gateway	文字列	none

表 2-2 ネットワーク設定で有効な MIB オブジェクト、値、およびタイプ (続き)

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlNetwork PendingIp Netmask	このオブジェクトは、指定されたターゲットの保留中 IP ネットマスクの設定に使用します。この設定は、指定された行の ilomCtrlNetworkCommitPending オブジェクトが true (真) に設定されるまで有効になりません。	<i>pending_ip_netmask</i>	文字列	none
ilomCtrlNetwork CommitPending	このオブジェクトは、指定された行の保留設定を確定するために使用します。このオブジェクトを true (1) に設定すると、これ以外の保留設定で指定した値に基づきネットワークが再設定されます。	true (1)、 false (2)	整数型	none

▼ シリアルポート設定の表示と構成

作業を開始する前に

- シリアルポート設定の表示および構成には、`get` コマンドおよび `set` コマンドを使用できます。この手順で使用する MIB オブジェクトの説明については、[18 ページ](#)の「シリアルポート設定 MIB オブジェクト」を参照してください。

次の手順に従って、シリアルポートの設定を表示および構成します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
Password: password
```

2. サービスプロセッサに設定可能な内部シリアルポートがあるかどうかを確認するには、次のように入力します。

```
% snmpget -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlSerialInternalPortPresent.0
```

3. 内部ポートのボーレートを 9600 に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlSerialInternalPortBaudRate.0 i 1
```

シリアルポート設定 MIB オブジェクト

シリアルポート設定では、次の MIB オブジェクト、値、およびタイプが有効です。

表 2-3 シリアルポート設定で有効な MIB オブジェクト、値、およびタイプ

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlSerialInternalPortPresent	指定されたデバイスに設定可能な内部シリアルポートがあるかどうかを示します。 注 - このオブジェクトは、読み取り専用です。	true(1)、 false(2)	整数型	none
ilomCtrlSerialInternalPortBaudRate	内部シリアルポートの現在のボーレート設定を指定します。このオブジェクトの読み取りや設定ができるのは、ilomCtrlSerialInternalPortPresent が true (真) の場合だけです。	baud9600(1)、 baud19200(2)、 baud38400(3)、 baud57600(4)、 baud115200(5)	整数型	none
ilomCtrlSerialExternalPortPresent	指定されたデバイスに設定可能な外部シリアルポートがあるかどうかを示します。 注 - このオブジェクトは、読み取り専用です。	true(1)、 false(2)	整数型	none
ilomCtrlSerialExternalPortBaudRate	外部シリアルポートの現在のボーレート設定を指定します。このオブジェクトの読み取りや設定ができるのは、ilomCtrlSerialExternalPortPresent が true (真) の場合だけです。	baud9600(1)、 baud19200(2)、 baud38400(3)、 baud57600(4)、 baud115200(5)	整数型	none
ilomCtrlSerialExternalPortFlowControl	外部シリアルポート現在のフロー制御設定を指定します。このオブジェクトの読み取りや設定ができるのは、ilomCtrlSerialExternalPortPresent が true (真) の場合だけです。	unknown(1)、 hardware(2)、 software(3)、 none(4)	整数型	none

▼ HTTP および HTTPS の設定の表示と構成

ILOM では、HTTP および HTTPS の両方の接続をサポートしています。ILOM を使用すると、HTTP アクセスを自動的に HTTPS にリダイレクトすることができます。また、HTTP ポートと HTTPS ポートを設定することもできます。

作業を開始する前に

- `get` および `set` コマンドを使用して、HTTP または HTTPS Web アクセスの表示および構成を実行できます。この手順で使用する MIB オブジェクトの説明については、[20 ページの「HTTP および HTTPS 設定の MIB オブジェクト」](#)を参照してください。

次の手順に従って、HTTP および HTTPS の設定を表示および構成します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
```

```
Password: password
```

2. 例として、次の各 SNMP コマンドを参照してください。
 - HTTP の状態を取得するには、次のように入力します。

```
% snmpget -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlHttpEnabled.0
```

- HTTP を有効にするには、次のように入力します。

```
% snmpset -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlHttpEnabled.0 i 1
```

- HTTP ポート番号を設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlHttpPortNumber.0 i 80
```

- HTTP 接続が HTTPS 接続にリダイレクトされるように HTTP を設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlHttpSecureRedirect.0 i 1
```

HTTP および HTTPS 設定の MIB オブジェクト

HTTP および HTTPS の設定では、次の MIB オブジェクト、値、およびタイプが有効です。

表 2-4 HTTP および HTTPS の設定で有効な MIB オブジェクト、値、およびタイプ

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
HTTP				
ilomCtrlHttpEnabled	HTTP ポートで、組み込みの Web サーバが動作および待機するかどうかを指定します。	true (1)、 false (2)	整数型	none
ilomCtrlHttpPortNumber	組み込みの Web サーバが HTTP 要求を待つのに使用するポート番号を指定します。	範囲: 0..65535	整数型	none
ilomCtrlHttpSecureRedirect	組み込みの Web サーバが HTTP 接続を HTTPS 接続にリダイレクトするかどうかを指定します。	true (1)、 false (2)	整数型	有効
HTTPS				
ilomCtrlHttpsEnabled	HTTPS ポートで、組み込みの Web サーバが動作および待機するかどうかを指定します。	true (1)、 false (2)	整数型	True
ilomCtrlHttpsPortNumber	組み込みの Web サーバが HTTPS 要求を待つのに使用するポート番号を指定します。	範囲: 0..65535	整数型	none

▼ IP アドレスの設定

作業を開始する前に

- get および set コマンドを使用すると、ILOM で既存の IP アドレスを編集できます。この手順で使用する MIB オブジェクトの説明については、[21 ページの「IP アドレスについて有効な MIB オブジェクト」](#)を参照してください。

次の手順に従って、IP アドレスを設定します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
```

```
Password: password
```

2. ネットワーク IP アドレスを取得するには、次のように入力します。

```
% snmpget -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlNetworkIpAddress.0
```

3. ネットワーク IP アドレスを設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlNetworkPendingIpAddress.0 s ipaddress  
ilomCtrlNetworkCommitPending.0 i 1
```

IP アドレスについて有効な MIB オブジェクト

IP アドレスでは、次の MIB オブジェクト、プロパティ、値、およびタイプが有効です。

表 2-5 IP アドレスについて有効な MIB オブジェクト、プロパティ、値、およびタイプ

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlNetworkTarget	設定可能なネットワークを備えるターゲットの命名法に基づく名前です。一部のシステムでは、ネットワークを備えるターゲットが複数あります。ラック搭載型のスタンドアロンサーバでは、この表には、命名法に基づき「/SP」が付けられたサービスプロセッサのネットワーク設定に関する行が1行だけ含まれることとなります。ブレードシステムの場合、この表には複数の行が含まれます。'/SC' のための行が1つ生成され、ネットワーク設定の構成が可能となります。また、ブレードのサービスプロセッサごとに行が存在することとなります。ブレードのサービスプロセッサには、命名法に基づき、たとえば、「/CH/BL0/SP」、「CH/BL1/SP」の形式で順番に名前が付けられます。これにより、CMM からサービスプロセッサを設定できます。 注 - この MIB オブジェクトにはアクセスできません。	target	文字列	none
ilomCtrlNetworkMacAddress	サービスプロセッサまたはシステムコントローラの MAC アドレス。 注 - このオブジェクトは、読み取り専用です。	MAC address	文字列	none

表 2-5 IP アドレスについて有効な MIB オブジェクト、プロパティ、値、およびタイプ (続き)

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlNetworkIpDiscovery	現在のターゲットが静的 IP 設定が割り当てられるように設定されているか、または DHCP から動的に取得されているかを示します。 注 - このオブジェクトは、読み取り専用です。	static (1), dynamic (2)	整数型	none
ilomCtrlNetworkIpAddress	指定されたターゲットの現在の IP アドレスを示します。 注 - このオブジェクトは、読み取り専用です。	ip_address	文字列	none
ilomCtrlNetworkIpGateway	指定されたターゲットの現在の IP ゲートウェイを示します。 注 - このオブジェクトは、読み取り専用です。	ip_gateway	文字列	none
ilomCtrlNetworkIpNetmask	指定されたターゲットの現在の IP ネットマスクを示します。 注 - このオブジェクトは、読み取り専用です。	ip_netmask	文字列	none
ilomCtrlNetworkPendingIpAddress	このオブジェクトは、指定されたターゲットの保留中 IP アドレスの設定に使用します。このプロパティは、指定された行の ilomCtrlNetworkCommitPending プロパティが true (真) に設定されるまでは有効になりません。	pending_ipaddress	文字列	none
ilomCtrlNetworkPendingIpGateway	このオブジェクトは、指定されたターゲットの保留中 IP ゲートウェイの設定に使用します。この設定は、指定された行の ilomCtrlNetworkCommitPending プロパティが true (真) に設定されるまで有効になりません。	pending_ip_gateway	文字列	none

表 2-5 IP アドレスについて有効な MIB オブジェクト、プロパティ、値、およびタイプ (続き)

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlNetworkPendingIpDiscovery	このオブジェクトは、指定されたターゲットの IP 検出モードに保留中の値を設定するために使います。設定できる値は、静的 (1) または動的 (2) です。静的な値を指定するには、次に示すこの表のほかの申請中のプロパティを設定する必要があります。 ilomCtrlNetworkPendingIpAddress、 ilomCtrlNetworkPendingIpGateway、および ilomCtrlNetworkPendingIpNetmask。動的を指定する場合は、ほかの申請中のプロパティは設定しないでください。このプロパティは、指定された行の ilomCtrlNetworkCommitPending MIB オブジェクトが true (真) に設定されるまで有効になりません。	static (1), dynamic (2)	整数型	none
ilomCtrlNetworkPendingIpNetmask	このオブジェクトは、指定されたターゲットの保留中 IP ネットマスクの設定に使用します。このプロパティは、指定された行の ilomCtrlNetworkCommitPending プロパティが true (真) に設定されるまでは有効になりません。	pending_ip_netmask	文字列	none
ilomCtrlNetworkCommitPending	このオブジェクトは、指定された行の pending プロパティを確定するために使用します。このプロパティを true (1) に設定すると、ほかの pending プロパティで指定された値に基づいてネットワークが再設定されます。	true (1), false (2)	整数型	none

Secure Shell の設定

トピック

説明	リンク
Secure Shell の設定	<ul style="list-style-type: none">• 24 ページの「現在の鍵および鍵長の表示」• 25 ページの「SSH の有効化と無効化」• 26 ページの「新しい SSH 鍵の生成」• 27 ページの「SSH サーバの再起動」

▼ 現在の鍵および鍵長の表示

作業を開始する前に

- 現在使用している鍵と鍵長についての情報は、`get` コマンドを使用して表示できます。この手順で使用する MIB オブジェクトの説明については、[25 ページの「現在使用している RSA および DSA の鍵および鍵長 MIB オブジェクト」](#)を参照してください。

次の手順に従って、現在の鍵および鍵長を表示します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
Password: password
```

2. 次に示す各 SNMP コマンドの例を参照してください。

- RSA 鍵の場合、現在使用している鍵および鍵長を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlSshRsaKeyFingerprint.0
% snmpget -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlSshRsaKeyLength.0
```

- DSA 鍵の場合、現在使用している鍵および鍵長を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlSshDsaKeyFingerprint.0
% snmpget -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlSshDsaKeyLength.0
```

現在使用している RSA および DSA の鍵および鍵長 MIB オブジェクト

鍵に関する情報を表示するには、次の各 MIB オブジェクトを使用します。

表 2-6 鍵の設定で有効な MIB オブジェクト、値、およびタイプ

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlSshRsaKey Fingerprint	SSH プロトコルで使用される RSA 鍵のフィンガプリント。	文字数: 0..255	文字列	none
ilomCtrlSshRsaKey Length	SSH プロトコルで使用される RSA 鍵の長さ。	範囲: 0..65535	整数型	none
ilomCtrlSshDsaKey Fingerprint	SSH プロトコルで使用される DSA 鍵のフィンガプリント。	文字数: 0..255	文字列	none
ilomCtrlSshDsaKey Length	SSH プロトコルで使用される DSA 鍵の長さ。	範囲: 0..65535	整数型	none

▼ SSH の有効化と無効化

作業を開始する前に

- SSH の有効化および無効化には、`set` コマンドを使用できます。この手順で使用する MIB オブジェクトの説明については、26 ページの「SSH が有効の MIB オブジェクト」を参照してください。

次の手順に従って、SSH を有効化および無効化を行います。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
Password: password
```

2. SSH の有効化と無効化を実行するには、次のコマンドを入力して `ilomCtrlSshEnabled` MIB オブジェクトを 1 (有効) または 2 (無効) に設定します。

```
% snmpset -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlSshEnabled.0 i 1|2
```

SSH が有効の MIB オブジェクト

SSH の有効化と無効化を行うには、次の MIB オブジェクトを使用します。

表 2-7 SSH 有効化設定で有効な MIB オブジェクト、値、およびタイプ

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlSshEnabled	SSH を有効にするかどうかを指定します。	true(1)、 false(2)	整数型	有効

▼ 新しい SSH 鍵の生成

作業を開始する前に

- 新しい SSH 鍵の生成には、`set` コマンドを使用できます。この手順で使用する MIB オブジェクトの説明については、27 ページの「SSH 鍵 MIB オブジェクト」を参照してください。

次の手順に従って、新しい SSH 鍵を生成します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
Password: password
```

2. SSH 鍵の種類を RSA に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlSshGenerateNewKeyType.0 i 2
```

3. 新しい RSA 鍵を生成するには、次のように入力します。

```
% snmpset -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlSshGenerateNewKeyAction.0 i 1
```

注 – フィンガプリントと鍵は異なって見えます。

SSH 鍵 MIB オブジェクト

SSH 鍵の生成では、次の MIB オブジェクト、値、およびタイプが有効です。

表 2-8 SSH 鍵の生成で有効な MIB オブジェクト、値、およびタイプ

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlSshGenerateNewKeyAction	この MIB オブジェクトは、新しい公開鍵の生成を開始するために使用します。	true (1)、 false (2)	整数型	none
ilomCtrlSshGenerateNewKeyType	この MIB オブジェクトは、生成する SSH 鍵の種類に使用します。	none (1)、 rsa (2)、 dsa (3)	整数型	none

▼ SSH サーバの再起動

新しい鍵は、SSH サーバが再起動するまで有効になりません。

作業を開始する前に

- SSH サーバの再起動には、set コマンドを使用できます。この手順で使用する MIB オブジェクトの説明については、[27 ページの「SSH MIB オブジェクトの再開」](#)を参照してください。

注 – SSH サーバの再起動によって、既存のすべての SSH 接続が終了します。

次の手順に従って、SSH サーバを再起動します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
```

```
Password: password
```

2. SSH サーバを再起動するには、次のように入力します。

```
% snmpset -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSshRestartSshAction.0 i 1
```

SSH MIB オブジェクトの再開

SSH サービスの再開については、次の MIB オブジェクト、値、およびタイプが有効です。

表 2-9 SSH サービスの再開で有効な MIB オブジェクト、値、およびタイプ

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlSshRestartSshAction	このオブジェクトは、SSH の再開に使用します。	true (1)、 false (2)	整数型	none

第3章

ユーザーアカウントの管理

項目	
説明	リンク
事前条件の確認	<ul style="list-style-type: none">• 30 ページの「作業を開始する前に」
ユーザーアカウントの設定	<ul style="list-style-type: none">• 31 ページの「ユーザーアカウントの設定」• 33 ページの「シングルサインオンの設定」
Active Directory の設定	<ul style="list-style-type: none">• 35 ページの「Active Directory 設定の表示と構成」• 40 ページの「Active Directory 管理者グループ設定の表示と構成」• 41 ページの「Active Directory オペレータグループ設定の表示と構成」• 43 ページの「Active Directory カスタムグループ設定の表示と構成」• 45 ページの「Active Directory ユーザードメイン設定の表示と構成」• 47 ページの「Active Directory 代替サーバ設定の表示と構成」• 51 ページの「冗長設定の表示と構成」• 52 ページの「Active Directory DNS ロケータ設定の表示と構成」• 54 ページの「DNS ネームサーバ設定の表示と構成」
LDAP の設定	<ul style="list-style-type: none">• 56 ページの「LDAP の設定」

項目	
説明	リンク
LDAP/SSL の設定	<ul style="list-style-type: none"> • 65 ページの「LDAP/SSL 管理者グループ設定の表示と構成」 • 66 ページの「LDAP/SSL オペレータグループ設定の表示と構成」 • 68 ページの「LDAP/SSL カスタムグループ設定の表示と構成」 • 70 ページの「LDAP/SSL ユーザードメイン設定の表示と構成」 • 72 ページの「LDAP/SSL 代替サーバ設定の表示と構成」

関連項目

ILOM に関する項目	節	ガイド
• 概念	• ユーザーアカウントの管理	『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』
• Web	• ユーザーアカウントの管理	『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』
• CLI	• ユーザーアカウントの管理	『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』

ILOM 3.0 の各種マニュアルは、
<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/> で入手
 できます。

作業を開始する前に

この章の手順を開始する前に、必ず、次の要件が満たされていることを確認してください。

- ユーザーアカウント情報を表示するには、Read Only (o) の役割を有効にする必要があります。
- ユーザーアカウント情報を設定するには、User Management (u) の役割を有効にする必要があります。
- snmpset コマンドを実行するには、SNMP v1 または v2c のコミュニティーあるいは読み取り/書き込み (rw) 権限を持つ SNMP v3 のユーザーアカウントを使用する必要があります。

注 - この節に掲載されるサンプル SNMP コマンドは、Net-SNMP サンプルアプリケーションに基づいているため、説明されているとおりに機能するのは Net-SNMP および Net-SNMP サンプルアプリケーションがインストールされている場合だけです。

ユーザーアカウントの設定

項目

説明

リンク

ユーザーアカウントの設定

- 31 ページの「ユーザーアカウントの設定」
- 33 ページの「シングルサインオンの設定」

▼ ユーザーアカウントの設定

作業を開始する前に

- ユーザーアカウント MIB オブジェクトの設定では、`get` コマンドおよび `set` コマンドを使用できます。この手順で使用する MIB オブジェクトの説明については、32 ページの「ユーザーアカウント MIB オブジェクト」を参照してください。

次の手順に従って、ユーザーアカウントを設定します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
```

```
Password: password
```

2. オペレータの役割を持つ新しいユーザーアカウントを作成するには、次のように入力します。

```
% snmpset -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlLocalUserRowStatus.'user1' i 4
ilomCtrlLocalUserRoles.'user1' s "operator"
ilomCtrlLocalUserPassword.'user1' s "password"
```

3. ユーザーアカウントを削除するには、次のように入力します。

```
% snmpset -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlLocalUserRowStatus.'user1' i 6
```

ユーザーアカウント MIB オブジェクト

ローカルユーザーアカウントでは、次の MIB オブジェクト、プロパティ、値、およびタイプが有効です。

表 3-1 ローカルユーザーアカウントで有効な MIB オブジェクト、プロパティ、値、およびタイプ

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlLocal UserUsername	ローカルユーザーのユーザー名。このユーザー名はアルファベットで始める必要があります。ユーザー名には英数字、ハイフン、および下線を使えますが、スペースは使用できません。ユーザー名とパスワードを同じにすることはできません。	<i>username</i>	文字列	none
ilomCtrlLocal UserPassword	ローカルユーザーのパスワード。	<i>password</i>	文字列	none
ilomCtrlLocal UserRoles	ユーザーに関連付ける役割を指定します。役割は、Administrator (管理者)、Operator (オペレータ) といった従来の表記で割り当てることも、a、u、c、r、o、s といった独立して機能する役割 ID の形式で割り当てることもできます。役割 ID は組み合わせることができます。たとえば、「aucros」となっている場合、a は admin (管理者)、u は user (ユーザー)、c は console (コンソール)、r は reset (リセット)、o は read-only (読み取り専用)、s は service (サービス) を意味します。	administrator、 operator、 admin(a)、 user(u)、 console(c)、 reset(r)、 read-only(o)、 service(s)	文字列	none
ilomCtrlLocal UserRowStatus	このオブジェクトは、新しい行の作成またはテーブルの中にある既存の行の削除に使用します。このプロパティは、createAndWait(5) に設定してユーザーを作成するか、destroy(6) に設定してユーザーを削除することができます。	active(1)、 notInService(2)、 notReady(3)、 createAndGo(4)、 createAndWait(5)、 destroy(6)	整数型	none

表 3-1 ローカルユーザーアカウントで有効な MIB オブジェクト、プロパティ、値、およびタイプ (続き)

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlLocal UserCLIMode	可能な CLI モードを記述する 列挙値。デフォルトモード は、ILOM DMTF CLP に対 応します。alom モードは、 ALOM CMT に対応します。	default (1)、 alom (2)	整数型	none

▼ シングルサインオンの設定

シングルサインオンは、ILOM にアクセスする際に必要になるパスワードの入力回数を減らすための、便利な認証サービスです。シングルサインオンは、デフォルトで有効になっています。あらゆる認証サービスと同様に、認証資格はネットワークを介して渡されます。これが望ましくない場合は、シングルサインオン認証サービスを無効にすることを検討してください。

作業を開始する前に

- シングルサインオン MIB オブジェクトの設定では、set コマンドを使用できません。この手順で使用する MIB オブジェクトの説明については、[34 ページの「シングルサインオン MIB オブジェクト」](#)を参照してください。

次の手順に従って、シングルサインオンを設定します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
Password: password
```

2. シングルサインオンを有効にするには、次のように入力します。

```
% snmpset -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlSingleSignonEnabled.0 i 1
```

シングルサインオン MIB オブジェクト

シングルサインオンでは、次の MIB オブジェクト、値、およびタイプが有効です。

表 3-2 シングルサインオンで有効な MIB オブジェクト、値、およびタイプ

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlSingle SignonEnabled	デバイスでシングルサインオン (SSO) 認証を有効にするかどうかを指定します。SSO を使用するとトークンの受け渡しが可能になるため、異なるアプリケーション間を移動する際にパスワードを入力しなおす必要がありません。これによって、SSO は、システムコントローラ (System Controller、SC) Web インタフェースとサービスプロセッサ (Service Processor、SP) Web インタフェース間、SC コマンド行インタフェースと SP コマンド行インタフェース間、さらには SC インタフェースおよび SP インタフェースと Java リモートコンソールアプリケーションとの間で使用できます。	true (1)、 false (2)	整数型	none

Active Directory の設定

項目

説明	リンク
Active Directory の設定	<ul style="list-style-type: none">• 35 ページの「Active Directory 設定の表示と構成」• 40 ページの「Active Directory 管理者グループ設定の表示と構成」• 41 ページの「Active Directory オペレータグループ設定の表示と構成」• 43 ページの「Active Directory カスタムグループ設定の表示と構成」• 45 ページの「Active Directory ユーザードメイン設定の表示と構成」• 47 ページの「Active Directory 代替サーバ設定の表示と構成」• 52 ページの「Active Directory DNS ロケータ設定の表示と構成」

▼ Active Directory 設定の表示と構成

作業を開始する前に

- Active Directory の設定の表示および構成には、`get` コマンドおよび `set` コマンドを使用できます。この手順で使用する MIB オブジェクトの説明については、[38 ページの「Active Directory MIB オブジェクト」](#)を参照してください。
- ほかの MIB オブジェクトの説明については、SUN-ILOM-CONTROL MIB を参照してください。

次の手順に従って、Active Directory 設定を表示および構成します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
Password: password
```

2. 次に示す各 SNMP コマンドの例を参照してください。

- Active Directory の状態を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirectoryEnabled.0
```

- Active Directory を有効にするには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirectoryEnabled.0 i 1
```

- Active Directory のポート番号を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirectoryPortNumber.0
```

- Active Directory のポート番号を設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirectoryPortNumber.0 i portnumber
```

- Active Directory のデフォルトのユーザーの役割を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirectoryDefaultRoles.0
```

- Active Directory のデフォルトのユーザーの役割を設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlActiveDirectoryDefaultRoles.0 s acro
```

- Active Directory の証明書ファイルの URI を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlActiveDirectoryCertFileURI.0
```

- Active Directory の証明書ファイルの URI を設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlActiveDirectoryCertFileURI.0 s URI
```

- Active Directory のタイムアウト値を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlActiveDirectoryTimeout.0
```

- Active Directory のタイムアウト値を設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlActiveDirectoryTimeout.0 i 6
```

- Active Directory の証明書の検証モードを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlActiveDirectoryStrictCertEnabled.0
```

- Active Directory の証明書の検証モードを設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlActiveDirectoryStrictCertEnabled.0 i 1
```

- Active Directory の証明書ファイルのステータスを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlActiveDirectoryCertFileStatus.0
```

- イベントログ設定を表示してイベントログに送信されるメッセージの量を確認するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlActiveDirectoryLogDetail.0
```

- イベントログを設定して、優先度がもっとも高いメッセージだけがイベントログに送信されるようにするには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlActiveDirectoryLogDetail.0 i 2
```

- Active Directory 経由での認証が行われる場合に user1 が持つ役割を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlActiveDirectoryDefaultRoles.'user1'
```

- Active Directory 経由での認証が行われる場合に、user1 に Admin (a) の役割を指定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlActiveDirectoryDefaultRoles.'user1' s a
```

- サーバに関連付けられた証明書情報が true (真) に設定されたとき、証明書情報を表示およびクリアするには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlActiveDirectoryCertClear.0  
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlActiveDirectoryCertClear.0 i 0
```

- 証明書ファイルのバージョンを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlActiveDirectoryCertVersion.0
```

- 証明書ファイルのシリアル番号を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlActiveDirectoryCertserialNo.0
```

- 証明書ファイルの発行元を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirectoryCertIssuer.0
```

- 証明書ファイルの対象者を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirectoryCertSubject.0
```

- 証明書ファイルの有効開始日付を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirectoryCertValidBegin.0
```

- 証明書ファイルの有効終了日付を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirectoryCertValidEnd.0
```

Active Directory MIB オブジェクト

Active Directory については、次の MIB オブジェクト、値、およびタイプが有効です。

表 3-3 Active Directory について有効な MIB オブジェクト、値、およびタイプ

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlActiveDirectoryEnabled	Active Directory クライアントを有効にするかどうかを指定します。	true (1)、 false (2)	整数型	true
ilomCtrlActiveDirectoryIP	ユーザーアカウントに対するネームサービスとして使用される Active Directory サーバの IP アドレス。	ipaddress	文字列	none
ilomCtrlActiveDirectoryPortNumber	Active Directory クライアントのポート番号を指定します。ポート番号として 1 ~ 65535 の値を指定すると実際のポート番号が設定されますが、「0」を指定するとポート番号は自動選択されます。	ポート番号 範囲: 0 ~ 65535	整数型	none

表 3-3 Active Directory について有効な MIB オブジェクト、値、およびタイプ (続き)

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlActiveDirectoryDefaultRoles	Active Directory 経由で認証されたユーザーが持つべき役割を指定します。このプロパティを Administrator (管理者)、Operator (オペレータ) といった従来の表記の役割や、a、u、c、r、o、s といった独立して機能する役割 ID に設定すると、Active Directory クライアントは Active Directory サーバに保存されているスキーマを無視します。一方、none (なし) に設定すると、値がクリアされ、ネイティブの Active Directory スキーマが使用されます。役割 ID は組み合わせることができます。たとえば、「aucros」となっている場合、a は admin (管理者)、u は user (ユーザー)、c は console (コンソール)、r は reset (リセット)、o は read-only (読み取り専用)、s は service (サービス) を意味します。	administrator、operator、admin(a)、user(u)、console(c)、reset(r)、read-only(o)、service(s)、none	文字列	none
ilomCtrlActiveDirectoryCertFileURI	厳密な証明書モードが有効になっている場合に必要な証明書ファイルの URI です。URI を設定すると、ファイルが転送され、証明書認証で証明書をすぐに利用できます。	URI	文字列	none
ilomCtrlActiveDirectoryTimeout	Active Directory サーバが応答しない場合の待ち時間を秒単位で指定します。この時間を超えるとタイムアウトが発生します。	範囲: 1 ~ 20 秒	整数型	4
ilomCtrlActiveDirectoryStrictCertEnabled	Active Directory クライアントで、厳密な証明書モードを有効にするかどうかを指定します。有効な場合は、Active Directory サーバとの通信時に証明書の検証を行えるように、Active Directory 証明書を SP にアップロードする必要があります。	true(1)、false(2)	整数型	true
ilomCtrlActiveDirectoryCertFileStatus	証明書ファイルのステータスを示す文字列。証明書ファイルが存在するかどうかの確認に役立ちます。	status	文字列	none

▼ Active Directory 管理者グループ設定の表示と構成

作業を開始する前に

- Net-SNMP サンプルアプリケーションを使用していれば、Active Directory 管理者グループ設定の構成に `snmpget` コマンドおよび `snmpset` コマンドを使用できます。この手順で使用する MIB オブジェクトの説明については、41 ページの「Active Directory 管理者グループ MIB オブジェクト」を参照してください。

次の手順に従って、Active Directory 管理者グループの設定を表示および構成します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
Password: password
```

2. Active Directory 管理者グループ ID 番号 2 の名前を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirAdminGroupName.2
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlActiveDirAdminGroupName.2 = STRING:
CN=spAdmins,DC=spc,DC=north,DC=sun,DC=com
```

3. Active Directory 管理者グループ ID 番号 2 の名前を CN=spAdmins、DC=spc、DC=south、DC=sun、DC=com に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirAdminGroupName.2 s CN=spAdmins,DC=spc,DC=
south,DC=sun,DC=com
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlActiveDirAdminGroupName.2 = STRING:
CN=spAdmins,DC=spc,DC=south,DC=sun,DC=com
% snmpget -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirAdminGroupName.2
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlActiveDirAdminGroupName.2 = STRING:
CN=spAdmins,DC=spc,DC=south,DC=sun,DC=com
```

Active Directory 管理者グループ MIB オブジェクト

Active Directory 管理者グループの設定では、次の MIB オブジェクト、値、およびタイプが有効です。

表 3-4 Active Directory 管理者グループ設定で有効な MIB オブジェクト、値、およびタイプ

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlActiveDirAdminGroupId	Active Directory 管理者グループエントリの整数表記の識別子。	1 ~ 5 注 - 読み取りや書き込みのためにこのオブジェクトにアクセスすることはできません。	整数型	none
ilomCtrlActiveDirAdminGroupName	この文字列には、Active Directory サーバ上のグループ名のいずれかと完全一致する識別名が含まれている必要があります。この表の管理者グループのいずれかに所属するユーザーには、Administrator (管理者) ILOM 役割が割り当てられます。	name (最大 255 文字)	文字列	none

▼ Active Directory オペレータグループ設定の表示と構成

作業を開始する前に

- Active Directory オペレータグループの設定の構成には、get コマンドおよび set コマンドを使用できます。この手順で使用する MIB オブジェクトの説明については、42 ページの「Active Directory オペレータグループ MIB オブジェクト」を参照してください。

次の手順に従って、Active Directory オペレータグループの設定を表示および構成します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
```

```
Password: password
```

2. Active Directory オペレータグループ ID 番号 2 の名前を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirOperatorGroupName.2
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlActiveDirOperatorGroupName.2 =
STRING: ad-oper-group-ent-2
```

3. Active Directory オペレータグループ ID 番号 2 の名前を new-name-2 に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirOperatorGroupName.2 s new-name-2
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlActiveDirOperatorGroupName.2 =
STRING: new-name-2
% snmpget -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirOperatorGroupName.2
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlActiveDirOperatorGroupName.2 =
STRING: new-name-2
```

Active Directory オペレータグループ MIB オブジェクト

Active Directory オペレータグループの設定では、次の MIB オブジェクト、値、およびタイプが有効です。

表 3-5 Active Directory オペレータグループ設定で有効な MIB オブジェクト、値、およびタイプ

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlActiveDirOperatorGroupId	Active Directory オペレータグループエントリの整数表記の識別子。	1 ~ 5 注 - 読み取りや書き込みのためにこのオブジェクトにアクセスすることはできません。	整数型	none
ilomCtrlActiveDirOperatorGroupName	この文字列には、Active Directory サーバ上のグループ名のいずれかと完全一致する識別名が含まれている必要があります。この表のオペレータグループのいずれかに所属するユーザーには、Operator (オペレータ) ILOM 役割が割り当てられます。	name (最大 255 文字)	文字列	none

▼ Active Directory カスタムグループ設定の表示と構成

作業を開始する前に

- Active Directory カスタムグループ設定の構成には、`get` コマンドおよび `set` コマンドを使用できます。この手順で使用する MIB オブジェクトの説明については、44 ページの「Active Directory カスタムグループ MIB オブジェクト」を参照してください。

次の手順に従って、Active Directory カスタムグループの設定を表示および構成します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
Password: password
```

2. Active Directory カスタムグループ ID 番号 2 の名前を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirCustomGroupName.2
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlActiveDirCustomGroupName.2 =
STRING: CN=SpSuperCust,OU=Groups,DC=johns,DC=sun,DC=com
```

3. Active Directory カスタムグループ ID 番号 2 の名前を CN=SpSuperCust、OU=Groups、DC=bills、DC=sun、DC=com に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirCustomGroupName.2 s CN=SpSuperCust,OU=Groups,DC=
bills,DC=sun,DC=com
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlActiveDirCustomGroupName.2 =
STRING: CN=SpSuperCust,OU=Groups,DC=bills,DC=sun,DC=com
% snmpget -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirCustomGroupName.2
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlActiveDirCustomGroupName.2 =
STRING: CN=SpSuperCust,OU=Groups,DC=bills,DC=sun,DC=com
```

4. Active Directory カスタムグループ ID 番号 2 の役割を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirCustomGroupRoles.2
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlActiveDirCustomGroupRoles.2 =
STRING: "aucro"
```

5. Active Directory カスタムグループ ID 番号 2 の役割を、ユーザー管理と読み取り専用 (u, o) に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirCustomGroupRoles.2 s "uo"
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlActiveDirCustomGroupRoles.2 =
STRING: "uo"
% snmpget -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirCustomGroupRole.2
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlActiveDirCustomGroupRoles.2 =
STRING: "uo"
```

Active Directory カスタムグループ MIB オブジェクト

Active Directory カスタムグループの設定では、次の MIB オブジェクト、値、およびタイプが有効です。

表 3-6 Active Directory カスタムグループ設定で有効な MIB オブジェクト、値、およびタイプ

MIB オブジェクト	Description	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlActiveDirCustomGroupId	Active Directory カスタムグループエントリの整数表記の識別子。	1 ~ 5 注 - 読み取りや書き込みのためにこのオブジェクトにアクセスすることはできません。	整数型	none
ilomCtrlActiveDirCustomGroupName	この文字列には、Active Directory サーバ上のグループ名のいずれかと完全一致する識別名が含まれている必要があります。この表のカスタムグループうちのいずれかに所属するユーザーには、そのエントリの役割設定に基づいて ILOM 役割が割り当てられます。	name (最大 255 文字)	文字列	none

表 3-6 Active Directory カスタムグループ設定で有効な MIB オブジェクト、値、およびタイプ (続き)

MIB オブジェクト	Description	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlActiveDirCustomGroupRoles	Active Directory 経由で認証されたユーザーが持つべき役割を指定します。このプロパティーを Administrator (管理者)、Operator (オペレータ) といった従来の表記の役割や、a、u、c、r、o、s といった独立して機能する役割 ID に設定すると、Active Directory クライアントは Active Directory サーバに保存されているスキーマを無視します。一方、このオブジェクトを none (なし) に設定すると、値がクリアされ、ネイティブの Active Directory スキーマが使用されます。役割 ID は組み合わせることができます。たとえば、「aucros」となっている場合、a は admin (管理者)、u は user (ユーザー)、c は console (コンソール)、r は reset (リセット)、o は read-only (読み取り専用)、s は service (サービス) を意味します。	administrator、operator、admin(a)、user(u)、console(c)、reset(r)、read-only(o)、service(s)、none	文字列	none

▼ Active Directory ユーザードメイン設定の表示と構成

作業を開始する前に

- Active Directory ユーザードメイン設定の構成には、`get` コマンドおよび `set` コマンドを使用できません。この手順で使用する MIB オブジェクトの説明については、46 ページの「Active Directory ユーザードメイン MIB オブジェクト」を参照してください。

次の手順に従って、Active Directory ユーザードメイン設定を表示および構成します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
```

```
Password:-password
```

2. Active Directory ユーザードメイン ID 番号 2 の名前を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirUserDomain.2
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlActiveDirUserDomain.2 = STRING:
<USERNAME>@davidc.example.sun.com
```

3. Active Directory ユーザードメイン ID 番号 2 の名前を <USERNAME>@johns.example.sun.com に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirUserDomain.2 s "<USERNAME>@johns.example.sun.com"
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlActiveDirUserDomain.2 = STRING:
<USERNAME>@johns.example.sun.com
% snmpget -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirUserDomain.2
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlActiveDirUserDomain.2 = STRING:
<USERNAME>@johns.example.sun.com
```

Active Directory ユーザードメイン MIB オブジェクト

Active Directory ユーザードメイン設定では、次の MIB オブジェクト、値、およびタイプが有効です。

表 3-7 Active Directory ユーザードメイン設定で有効な MIB オブジェクト、値、およびタイプ

MIB オブジェクト	Description	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlActiveDirUserDomainId	Active Directory ドメインの整数表記の識別子。	1 ~ 5 注 - 読み取りや書き込みのためにこのオブジェクトにアクセスすることはできません。	整数型	none
ilomCtrlActiveDirUserDomain	この文字列は、Active Directory サーバ上の認証ドメインと完全一致する必要があります。この文字列には、置換文字列 (<USERNAME>) が含まれている必要があります。この置換文字列は、認証時にユーザーのログイン名と置き換えられます。文字列では、原則の形式または識別名の形式を使用できます。	name (最大 255 文字)	文字列	none

▼ Active Directory 代替サーバ設定の表示と構成

作業を開始する前に

- Active Director 代替サーバ設定を構成するための MIB オブジェクトプロパティ値の設定には、`get` コマンドおよび `set` コマンドを使用できます。この手順で使用する MIB オブジェクトの説明については、50 ページの「Active Directory 代替サーバ MIB オブジェクト」を参照してください。

次の手順に従って、Active Directory 代替サーバ設定を表示および構成します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
Password: password
```

2. 次に示す各 SNMP コマンドの例を参照してください。

- Active Directory 代替サーバ ID 番号 2 の IP アドレスを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirAlternateServerIp.2
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlActiveDirAlternateServerIp.2 =
IpAddress: 10.7.143.236
```

- Active Directory 代替サーバ ID 番号 2 の IP アドレスを 10.7.143.246 に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirAlternateServerIp.2 a 10.7.143.246
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlActiveDirAlternateServerIp.2 =
IpAddress: 10.7.143.246
% snmpget -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirAlternateServerIp.2
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlActiveDirAlternateServerIp.2 =
IpAddress: 10.7.143.246
```

- Active Directory 代替サーバ ID 番号 2 のポート番号を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirAlternateServerPort.2
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlActiveDirAlternateServerPort.2 =
INTEGER: 636
```

- Active Directory 代替サーバ ID 番号 2 のポート番号を 639 に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirAlternateServerPort.2 i 639
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlActiveDirAlternateServerPort.2 =
INTEGER: 639
% snmpget -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirAlternateServerIp.2
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlActiveDirAlternateServerPort.2 =
INTEGER: 639
```

- Active Directory 代替サーバ ID 番号 2 の証明書ステータスを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirAlternateServerCertStatus.2
SUN-ILOM-CONTROL-
MIB::ilomCtrlActiveDirAlternateServerCertStatus.2 = STRING:
certificate not present
```

- Active Directory 代替サーバ ID 番号 2 の証明書の URI を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirAlternateServerCertURI.2
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlActiveDirAlternateServerCertURI.2 =
STRING: none
```

- true (真) に設定されたときに、サーバに関連付けられた証明書情報をクリアするには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirAlternateServerCertClear.0 i 1
```

- 代替サーバの証明書ファイルの証明書バージョンを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirAlternateServerCertVersion.0
```

- 代替サーバの証明書ファイルのシリアル番号を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlActiveDirAlternateServerCertSerialNo.0
```

- 代替サーバの証明書ファイルの発行元を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlActiveDirAlternateServerCertIssuer.0
```

- 代替サーバの証明書ファイルの対象者を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlActiveDirAlternateServerCertSubject.0
```

- 代替サーバの証明書ファイルの有効開始日付を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlActiveDirAlternateServerCertValidBegin.0
```

- 代替サーバの証明書ファイルの有効終了日付を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlActiveDirAlternateServerCertValidEnd.0
```

Active Directory 代替サーバ MIB オブジェクト

Active Directory 代替サーバ設定では、次の MIB オブジェクト、値、およびタイプが有効です。

表 3-8 Active Directory 代替サーバ設定で有効な MIB オブジェクト、値、およびタイプ

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlActiveDirAlternateServerId	Active Directory 代替サーバテーブルの整数表記の識別子。	1 ~ 5 注 - 読み取りや書き込みのためにこのオブジェクトにアクセスすることはできません。	整数型	none
ilomCtrlActiveDirAlternateServerIP	ユーザーアカウントに対するネームサービスとして使用される Active Directory 代替サーバの IP アドレス。	IP address	文字列	none
ilomCtrlActiveDirAlternateServerPort	Active Directory 代替サーバのポート番号を指定します。ポート番号として 0 (ゼロ) を指定すると、自動選択により既知のポート番号が使用されます。1 ~ 65535 の値を指定すると、ポート番号を明示的に設定できます。	ポート番号 (範囲: 0 ~ 65535)	整数型	none
ilomCtrlActiveDirAlternateServerCertStatus	証明書ファイルのステータスを示す文字列。証明書ファイルが存在するかどうかの確認に役立ちます。	status (最大文字数: 255 文字)	文字列	none
ilomCtrlActiveDirAlternateServerCertURI	厳密な証明書モードが有効になっている場合に必要な証明書ファイルの URI です。URI を設定すると、ファイルが転送され、証明書認証で証明書をすぐに利用できます。また、証明書を直接操作するために、remove あるいは restore がサポートされます。	URI	文字列	none

▼ 冗長設定の表示と構成

作業を開始する前に

- 冗長設定の表示および構成には、`get` コマンドおよび `set` コマンドを使用できます。これらのコマンドで使用される MIB オブジェクトの説明については、SUN-ILOM-CONTROL MIB を参照してください。

次の手順に従って、冗長設定を表示および構成します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
```

```
Password: password
```

2. 次に示す各 SNMP コマンドの例を参照してください。

- 冗長構成のサーバのステータスを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlRedundancyStatus.0
```

- サーバの昇格/降格 (アクティブステータスに昇格するのか、スタンバイステータスに降格するのか) を管理するプロパティを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlRedundancyAction.0
```

- 冗長サーバをスタンバイステータスからアクティブステータスに昇格するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlRedundancyAction.0 i 2
```

- 該当するエージェントが動作しているシャーシ監視モジュールシャーシ監視モジュール (Chassis Monitoring Module、CMM) の FRU 名を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlRedundancyFRUName.0
```

▼ Active Directory DNS ロケータ設定の表示と構成

作業を開始する前に

- Active Directory DNS ロケータ設定の構成では、`get` コマンドおよび `set` コマンドを使用できます。この手順で使用する MIB オブジェクトの説明については、[53 ページ](#)の「Active Directory DNS ロケータ MIB オブジェクト」を参照してください。

次の手順に従って、Active Directory DNS ロケータの設定を表示および構成します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
Password: password
```

2. Active Directory DNS ロケータの状態を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirDnsLocatorEnabled.0
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlActiveDirDnsLocatorEnabled.0 =
INTEGER: false(2)
```

3. Active Directory DNS ロケータ ID 番号 2 の状態を「有効」に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirDnsLocatorEnabled.0 i 1
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlActiveDirDnsLocatorEnabled.0 =
INTEGER: true(1)
% snmpget -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirDnsLocatorEnabled.2
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlActiveDirDnsLocatorEnabled.2 =
INTEGER: true(1)
```

4. Active Directory DNS ロケータ ID 番号 2 のサービス名を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirDnsLocatorQueryService.2
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlActiveDirDnsLocatorQueryService.2 =
STRING: _ldap._tcp.dc._msdcs.<DOMAIN>.<PORT:636>
```

5. Active Directory DNS ロケータ ID 番号 2 のサービス名およびポート番号を設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirDnsLocatorQueryService.2 s
"_ldap._tcp.pdc._msdcs.<DOMAIN>.<PORT:936>"
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlActiveDirDnsLocatorQueryService.2 =
STRING: _ldap._tcp.pdc._msdcs.<DOMAIN>.<PORT:936>
% snmpget -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlActiveDirDnsLocatorQueryService.2
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlActiveDirDnsLocatorQueryService.2 =
STRING: _ldap._tcp.pdc._msdcs.<DOMAIN>.<PORT:936>
```

Active Directory DNS ロケータ MIB オブジェクト

Active Directory DNS ロケータの設定では、次の MIB オブジェクト、値、およびタイプが有効です。

表 3-9 Active Directory DNS ロケータの設定で有効な MIB オブジェクト、値、およびタイプ

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlActiveDirDnsLocatorEnabled	Active Directory DNS ロケータの機能を有効にするかどうかを指定します。	true(1)、 false(2)	整数型	false
ilomCtrlActiveDirDnsLocatorQueryId	Active Directory DNS ロケータのクエリーエントリの整数表記の識別子。	1 ~ 5 注 - 読み取りや書き込みのためにこのオブジェクトにアクセスすることはできません。	整数型	none
ilomCtrlActiveDirDnsLocatorQueryService	DNS クエリーの実行に使用されるサービス名。この名前には、「<DOMAIN>」という置換マーカールを含めることがあります。このマーカールは認証時、ユーザーに関連付けられているドメイン情報で置き換えられます。また、サービス名に「<PORT:>」を含めることもできます。このマーカールは、必要な場合に、得られたなんらかのポート情報を上書きするために使用できます。たとえば、標準の LDAP/SSL ポート 636 を表すために、<PORT:636> を指定することができます。	name (最大 255 文字)	文字列	none

DNS ネームサーバの設定

▼ DNS ネームサーバ設定の表示と構成

作業を開始する前に

- DNS ネームサーバの設定の表示および構成には、`get` コマンドおよび `set` コマンドを使用できます。これらのコマンドで使用される MIB オブジェクトの説明については、SUN-ILOM-CONTROL MIB を参照してください。

次の手順に従って、DNS ネームサーバの設定を表示および構成します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
```

```
Password: password
```

2. 次に示す各 SNMP コマンドの例を参照してください。

- DNS のネームサーバを表示および指定するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlDNSNameServers.0  
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlDNSNameServers.0 s 'nameservername'
```

- DNS の検索パスを表示および指定するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlDNSSearchPath.0  
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlDNSSearchPath.0 s 'searchpath'
```

- DNS の DHCP AutoDNS 機能の状態を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlDNSdhcpAutoDns.0
```

- DNS の DHCP AutoDNS 機能の状態を有効に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlDNSdhcpAutoDns.0 i 1
```

- サーバが応答しない場合の待ち時間を秒単位で表示するには、次のように入力します。この時間を超えると、タイムアウトが発生します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlDNSTimeout.0
```

- サーバが応答しない場合の秒単位の待ち時間を 5 秒に設定するには、次のように入力します。この場合、「5秒」を超えるとタイムアウトが発生します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlDNSTimeout.0 i 5
```

- タイムアウト後に許可される要求の繰り返し回数を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlDNSRetries.0
```

- タイムアウト後に許可される要求の繰り返し回数を 5 回に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlDNSRetries.0 i 5
```

LDAP 用の ILOM 設定

項目

説明

リンク

LDAP 用の ILOM 設定

• [56 ページの「LDAP の設定」](#)

▼ LDAP の設定

作業を開始する前に

- LDAP をサポートできるように ILOM を設定する場合は、`get` コマンドおよび `set` コマンドを使用できます。この手順で使用する MIB オブジェクトの説明については、58 ページの「LDAP 用 ILOM の MIB オブジェクト」を参照してください。

次の手順に従って、LDAP 用に ILOM を設定します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
```

```
Password: password
```

2. 次に示す各 SNMP コマンドの例を参照してください。

- LDAP サーバが LDAP ユーザーを認証できるように設定されているかどうかを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlLdapEnabled.0
```

- LDAP サーバの状態を「有効」に設定し、LDAP ユーザーを認証できるようにするには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlLdapEnabled.0 i 1
```

- LDAP サーバの IP アドレスを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlLdapServerIP.0
```

- LDAP サーバの IP アドレスを設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlLdapServerIP.0 a ipaddress
```

- LDAP サーバのポート番号を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlLdapPortNumber.0
```

- LDAP サーバのポート番号を設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlLdapPortNumber.0 i 389
```

- LDAP サーバの識別名を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlLdapBindDn.0
```

- LDAP サーバの識別名を設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlLdapBindDn.0 s ou=people,ou=sales,dc=sun,dc=com
```

- LDAP サーバのパスワードを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlLdapBindPassword.0
```

- LDAP サーバのパスワードを設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlLdapBindPassword.0 s password
```

- ユーザー検索の対象にする LDAP サーバのブランチを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlLdapSearchBase.0
```

- ユーザー検索の対象にする LDAP サーバのブランチを設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlLdapSearchBase.0 s ldap_server_branch
```

- LDAP サーバのデフォルトの役割を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlLdapDefaultRoles.0
```

- LDAP サーバのデフォルトの役割を Administrator (管理者) に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlLdapDefaultRoles.0 s administrator
```

LDAP 用 ILOM の MIB オブジェクト

LDAP 用の ILOM 設定では、次の MIB オブジェクト、値、およびタイプが有効です。

表 3-10 LDAP 設定で有効な MIB オブジェクト、値、およびタイプ

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlLdap Enabled	LDAP クライアントを有効にするかどうかを指定します。	true (1)、 false (2)	整数型	false
ilomCtrlLdap ServerIP	ユーザーアカウントに対するネットワークサービスとして使用される LDAP サーバの IP アドレス。	IP address	文字列	none
ilomCtrlLdap PortNumber	LDAP クライアントのポート番号を指定します。	範囲: 0..65535	整数型	389
ilomCtrlLdap BindDn	LDAP サーバにバインドするために使用される、読み取り専用プロセスユーザーの識別名 (Distinguished Name, DN)。例: "cn=proxyuser,ou=people,dc=sun,dc=com"	distinguished_name	文字列	none

表 3-10 LDAP 設定で有効な MIB オブジェクト、値、およびタイプ (続き)

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlLdap BindPassword	LDAP サーバにバインドするために使用される、読み取り専用プロキシユーザーのパスワード。このプロパティは、本来は書き込み専用です。SNMP v2 では、書き込み専用アクセスレベルはサポートされなくなっています。このプロパティを読み込むとき、必ず Null 値が返されます。	<i>password</i>	文字列	none
ilomCtrlLdap SearchBase	LDAP データベース内の検索ベース。これより以下でユーザーが検索されます。例: "ou=people,dc=sun,dc=com"	ユーザー検索の対象になる、LDAP サーバのブランチ	文字列	none
ilomCtrlLdap DefaultRoles	LDAP 経由で認証されたユーザーが持つべき役割を指定します。このプロパティは、Administrator (管理者)、Operator (オペレータ) といった従来の表記の役割も、a、u、c、r、o、s といった単独で機能する役割 ID の組み合わせもサポートします。たとえば、「aucros」となっている場合、a は admin (管理者)、u は user (ユーザー)、c は console (コンソール)、r は reset (リセット)、o は read-only (読み取り専用)、s は service (サービス) を意味します。	administrator、operator、admin(a)、user(u)、console(c)、reset(r)、read-only(o)、service(s)	文字列	none

LDAP/SSL 用の ILOM の設定

項目

説明	リンク
LDAP/SSL の設定	<ul style="list-style-type: none">• 60 ページの「LDAP/SSL の設定」• 64 ページの「LDAP/SSL 証明書設定の表示と構成」• 65 ページの「LDAP/SSL 管理者グループ設定の表示と構成」• 66 ページの「LDAP/SSL オペレータグループ設定の表示と構成」• 68 ページの「LDAP/SSL カスタムグループ設定の表示と構成」• 70 ページの「LDAP/SSL ユーザードメイン設定の表示と構成」• 72 ページの「LDAP/SSL 代替サーバ設定の表示と構成」

▼ LDAP/SSL の設定

作業を開始する前に

- LDAP/SSL 設定の構成には、`get` コマンドおよび `set` コマンドを使用できます。この手順で使用する MIB オブジェクトの説明については、62 ページの「LDAP/SSL MIB オブジェクト」を参照してください。

次の手順に従って、LDAP/SSL 用に ILOM を設定します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
Password: password
```

2. 次に示す各 SNMP コマンドの例を参照してください。

- LDAP/SSL の状態を「有効」に設定し、LDAP/SSL ユーザーを認証できるようにするには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlLdapSslEnabled.0 i 1
```

- LDAP/SSL の IP アドレスを設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlLdapSslIP.0 a ipaddress
```

- LDAP/SSL のポート番号を設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlLdapSslPortNumber.0 i portnumber
```

- LDAP/SSL のデフォルトのユーザー役割を設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlLdapSslDefaultRoles.0 s operator
```

- LDAP/SSL の証明書ファイルの URI を設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlLdapSslCertFileURI.0 s URI
```

- LDAP/SSL のタイムアウトを設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlLdapSslTimeout.0 i 6
```

- LDAP/SSL の厳密な証明書モードを有効にする値に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlLdapSslStrictCertEnabled.0 s true
```

- LDAP/SSL の証明書ファイルのステータスを設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlLdapSslCertFileStatus.0 s status
```

- LDAP/SSL ログの詳細レベルを示す値を「中程度」に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlLdapSslLogDetail.0 i 3
```

LDAP/SSL MIB オブジェクト

LDAP/SSL 設定では、次の MIB オブジェクト、値、およびタイプが有効です。

表 3-11 LDAP/SSL 設定で有効な MIB オブジェクト、値、およびタイプ (グローバル変数)

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlLdap SslEnabled	LDAP/SSL クライアントを有効にするかどうかを指定します。	true (1)、 false (2)	整数型	true
ilomCtrlLdap SslIP	ユーザーアカウントに対するディレクトリサービスとして使用されている LDAP/SSL サーバの IP アドレス。	IP address	文字列	none
ilomCtrlLdap SslPort Number	LDAP/SSL クライアントのポート番号を指定します。ポート番号として 1 ~ 65535 の値を指定すると実際のポート番号が設定されますが、「0」を指定するとポート番号は自動選択されます。	ポート番号 (範囲: 0 ~ 65535)	整数型	389
ilomCtrlLdap SslDefault Roles	LDAP/SSL 経由で認証されたユーザーが持つべき役割を指定します。このプロパティを Administrator (管理者)、Operator (オペレータ) といった従来の表記の役割や、a、u、c、r、o、s といった単独で機能する役割 ID に設定すると、LDAP/SSL クライアントは LDAP サーバに保存されているスキーマを無視します。一方、このオブジェクトを none (なし) に設定すると、値がクリアされ、ネイティブの LDAP/SSL スキーマが使用されます。各役割 ID を自由に結合して、複数の役割を組み合わせることができます。たとえば、このオブジェクトを「aucros」と設定できます。その場合、a は admin (管理者)、u は user (ユーザー)、c は console (コンソール)、r は reset (リセット)、o は read-only (読み取り専用)、s は service (サービス) を意味します。	administrator、 operator、 admin(a)、 user(u)、 console(c)、 reset(r)、 read-only(o)、 service(s)、 none	文字列	none

表 3-11 LDAP/SSL 設定で有効な MIB オブジェクト、値、およびタイプ (グローバル変数) (続き)

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlLdapSslCertFileURI	証明書の検証を実行するためにアップロードする必要がある、LDAP/SSL サーバの証明書ファイルのTFTP URI。URI を設定すると、指定したファイルが転送され、証明書認証で証明書をすぐに利用できます。厳密な証明書モードが有効な場合は、サーバの証明書ファイルが必要です。また、証明書を直接操作するために、remove あるいは restore がサポートされます。	URI	文字列	none
ilomCtrlLdapSslTimeout	LDAP/SSL サーバが応答しない場合の待ち時間を秒単位で指定します。この時間を超えるとタイムアウトが発生します。	範囲: 1 ~ 20	整数型	4
ilomCtrlLdapSslStrictCertEnabled	LDAP/SSL クライアントで、厳密な証明書モードを有効にするかどうかを指定します。有効な場合は、LDAP/SSL サーバとの通信時に証明書の検証を行えるように、LDAP/SSL サーバの証明書を SP にアップロードする必要があります。	true (1)、 false (2)	整数型	true
ilomCtrlLdapSslCertFileStatus	証明書ファイルのステータスを示す文字列。証明書ファイルが存在するかどうかの確認に役立ちます。	status (最大文字数: 255 文字)	文字列	none
ilomCtrlLdapSslLogDetail	イベントログに送信されるメッセージの量を制御します。優先度が高いとログに格納されるメッセージの数がもっとも少なくなり、優先度がもっとも低い「トレース」では記録されるメッセージがもっとも多くなります。このオブジェクトを none (なし) に設定すると、メッセージは一切記録されません。	none (1)、 high (2)、 medium (3)、 low (4)、 trace (5)	整数型	none

▼ LDAP/SSL 証明書設定の表示と構成

作業を開始する前に

- LDAP/SSL 証明書設定の表示および構成には、`get` コマンドおよび `set` コマンドを使用できます。これらのコマンドで使用される MIB オブジェクトの説明については、SUN-ILOM-CONTROL MIB を参照してください。

次の手順に従って、LDAP/SSL 証明書の設定を表示および構成します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
Password: password
```

2. 次に示す各 SNMP コマンドの例を参照してください。

- `true` (真) に設定されたときに、サーバに関連付けられた証明書情報をクリアするには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlLdapSslCertFileClear.0 i 0
```

- 証明書ファイルの証明書バージョンを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlLdapSslCertFileVersion.0
```

- 証明書ファイルのシリアル番号を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlLdapSslCertFileSerialNo.0
```

- 証明書ファイルの発行元を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlLdapSslCertFileIssuer.0
```

- 証明書ファイルの対象者を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlLdapSslCertFileSubject.0
```

- 証明書ファイルの有効開始日付を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlLdapSslCertFileValidBegin.0
```

- 証明書ファイルの有効終了日付を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlLdapSslCertFileValidEnd.0
```

▼ LDAP/SSL 管理者グループ設定の表示と構成

作業を開始する前に

- LDAP/SSL 管理者グループ設定の構成には、`get` コマンドおよび `set` コマンドを使用できます。この手順で使用する MIB オブジェクトの説明については、66 ページの「LDAP/SSL 管理者グループ MIB オブジェクト」を参照してください。

次の手順に従って、LDAP/SSL 管理者グループの設定を表示および構成します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
```

```
Password: password
```

2. 次に示す各 SNMP コマンドの例を参照してください。

- LDAP/SSL 管理者グループ ID 番号 3 の名前を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlLdapSslAdminGroupName.3
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlLdapSslAdminGroupName.3 = STRING:
CN=SpSuperAdmin,OU=Groups,DC=davidc,DC=example,DC=sun,DC=com
```

- LDAP/SSL 管理者グループ ID 番号 3 の名前を CN=SpSuperAdmin、OU=Groups、DC=tomp、DC=example、DC=sun、DC=com に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlLdapSslAdminGroupName.3 s CN=SpSuperAdmin,OU=
Groups,DC=tomp,DC=example,DC=sun,DC=com
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlLdapSslAdminGroupName.3 = STRING:
CN=SpSuperAdmin,OU=Groups,DC=tomp,DC=example,DC=sun,DC=com
% snmpget -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlLdapSslAdminGroupName.3
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlLdapSslAdminGroupName.3 = STRING:
CN=SpSuperAdmin,OU=Groups,DC=tomp,DC=example,DC=sun,DC=com
```

LDAP/SSL 管理者グループ MIB オブジェクト

LDAP/SSL 管理者グループの設定では、次の MIB オブジェクト、値、およびタイプが有効です。

表 3-12 LDAP/SSL 管理者グループ設定で有効な MIB オブジェクト、値、およびタイプ

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlLdap SslAdminGroup Id	LDAP/SSL 管理者グループエン トリの整数表記の識別子。	1 ~ 5 注 - 読み取りや書き 込みのためにこのオ ブジェクトにアクセ スすることはできま せん。	整数型	none
ilomCtrlLdap SslAdminGroup Name	この文字列には、LDAP/SSL サーバ上のグループ名のいずれ かと完全一致する識別名が含ま れている必要があります。この 表の管理者グループのいずれか に所属するユーザーには、 Administrator (管理者) ILOM 役 割が割り当てられます。	name (最大 255 文字)	文字列	none

▼ LDAP/SSL オペレータグループ設定の表示と構成

作業を開始する前に

- LDAP/SSL オペレータグループ設定の構成には、get コマンドおよび set コマンドを使用できます。この手順で使用する MIB オブジェクトの説明については、[67 ページの「LDAP/SSL オペレータグループ MIB オブジェクト」](#)を参照してください。

次の手順に従って、LDAP/SSL オペレータグループの設定を表示および構成します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。
たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
```

```
Password: password
```

2. 次に示す各 SNMP コマンドの例を参照してください。

- LDAP/SSL オペレータグループ ID 番号 3 の名前を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlLdapSslOperatorGroupName.3
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlLdapSslOperatorGroupName.3 =
STRING:CN=SpSuperOper,OU=Groups,DC=dauidc,DC=example,DC=sun,DC=com
```

- LDAP/SSL オペレータグループ ID 番号 3 の名前を CN=SpSuperAdmin、OU=Groups、DC=tomp、DC=example、DC=sun、DC=com に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlLdapSslOperatorGroupName.3 s CN=SpSuperOper,OU=
Groups,DC=tomp,DC=example,DC=sun,DC=com
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlLdapSslOperatorGroupName.3 =
STRING: CN=SpSuperOper,OU=Groups,DC=tomp,DC=example,DC=sun,DC=com
% snmpget -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlLdapSslOperatorGroupName.3
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlLdapSslOperatorGroupName.3 =
STRING: CN=SpSuperOper,OU=Groups,DC=tomp,DC=example,DC=sun,DC=com
```

LDAP/SSL オペレータグループ MIB オブジェクト

LDAP/SSL オペレータグループの設定では、次の MIB オブジェクト、値、およびタイプが有効です。

表 3-13 LDAP/SSL オペレータグループ設定で有効な MIB オブジェクト、値、およびタイプ

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlLdapSslOperatorGroupId	LDAP/SSL オペレータグループエントリの整数表記の識別子。	1 ~ 5 注 - 読み取りや書き込みのためにこのオブジェクトにアクセスすることはできません。	整数型	none
ilomCtrlLdapSslOperatorGroupName	この文字列には、LDAP/SSL サーバ上のグループ名のいずれかと完全一致する識別名が含まれている必要があります。この表のオペレータグループのいずれかに所属するユーザーには、Operator (オペレータ) ILOM 役割が割り当てられます。	name (最大 255 文字)	文字列	none

▼ LDAP/SSL カスタムグループ設定の表示と構成

作業を開始する前に

- LDAP/SSL カスタムグループ設定の構成には、`get` コマンドおよび `set` コマンドを使用できます。この手順で使用する MIB オブジェクトの説明については、[69 ページの「LDAP/SSL カスタムグループ MIB オブジェクト」](#)を参照してください。

次の手順に従って、LDAP/SSL カスタムグループの設定を表示および構成します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
Password: password
```

2. 次に示す各 SNMP コマンドの例を参照してください。

- LDAP/SSL カスタムグループ ID 番号 2 の名前を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlLdapSslCustomGroupName.2
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlLdapSslCustomGroupName.2 = STRING:
CN=SpSuperCust,OU=Groups,DC=johns,DC=sun,DC=com
```

- LDAP/SSL カスタムグループ ID 番号 2 の名前を CN=SpSuperCust, OU=Groups, DC=bills, DC=sun, DC=com に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlLdapSslCustomGroupName.2 s CN=SpSuperCust,OU=Groups,DC=
bills,DC=sun,DC=com
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlLdapSslCustomGroupName.2 = STRING:
CN=SpSuperCust,OU=Groups,DC=bills,DC=sun,DC=com
% snmpget -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlLdapSslCustomGroupName.2
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlLdapSslCustomGroupName.2 = STRING:
CN=SpSuperCust,OU=Groups,DC=bills,DC=sun,DC=com
```

- LDAP/SSL カスタムグループ ID 番号 2 の役割を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlLdapSslCustomGroupRoles.2
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlLdapSslCustomGroupRoles.2 = STRING:
"aucro"
```

- LDAP/SSL カスタムグループ ID 番号 2 の役割を、ユーザー管理と読み取り専用 (u, o) に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlLdapSslCustomGroupRoles.2 s "uo"
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlLdapSslCustomGroupRoles.2 = STRING:
"uo"
% snmpget -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlLdapSslCustomGroupRoles.2
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlLdapSslCustomGroupRoles.2 = STRING:
"uo"
```

LDAP/SSL カスタムグループ MIB オブジェクト

LDAP/SSL カスタムグループの設定では、次の MIB オブジェクト、値、およびタイプが有効です。

表 3-14 LDAP/SSL カスタムグループ設定で有効な MIB オブジェクト、値、およびタイプ

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlLdapSslCustomGroupId	LDAP/SSL カスタムグループエントリの整数表記の識別子。	1 ~ 5 注 - 読み取りや書き込みのためにこのオブジェクトにアクセスすることはできません。	整数型	none
ilomCtrlLdapSslCustomGroupName	この文字列には、LDAP/SSL サーバ上のグループ名のいずれかと完全一致する識別名が含まれている必要があります。この表のカスタムグループうちのいずれかに所属するユーザーには、そのエントリの役割設定に基づいて ILOM 役割が割り当てられます。	name (最大 255 文字)	文字列	none

表 3-14 LDAP/SSL カスタムグループ設定で有効な MIB オブジェクト、値、およびタイプ (続き)

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlLdap SslCustomGroup Roles	LDAP/SSL 経由で認証されたユーザーが持つべき役割を指定します。このプロパティーを、Administrator (管理者)、Operator (オペレータ) といった従来の表記の役割や、a、u、c、r、o、s といった単独で機能する役割 ID に設定すると、LDAP/SSL クライアントは LDAP/SSL サーバに保存されているスキーマを無視します。一方、このオブジェクトを none (なし) に設定すると、値がクリアされ、ネイティブの LDAP/SSL スキーマが使用されます。役割 ID は組み合わせることができます。たとえば、「aucros」となっている場合、a は admin (管理者)、u は user (ユーザー)、c は console (コンソール)、r は reset (リセット)、o は read-only (読み取り専用)、s は service (サービス) を意味します。	administrator、operator、admin(a)、user(u)、console(c)、reset(r)、read-only(o)、service(s)、none	文字列	none

▼ LDAP/SSL ユーザードメイン設定の表示と構成

作業を開始する前に

- LDAP/SSL ユーザードメイン設定の構成には、get コマンドおよび set コマンドを使用できます。この手順で使用する MIB オブジェクトの説明については、71 ページの「LDAP/SSL ユーザードメイン MIB オブジェクト」を参照してください。

次の手順に従って、LDAP/SSL ユーザードメインの設定を表示および構成します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
Password: password
```

2. 次に示す各 SNMP コマンドの例を参照してください。

- LDAP/SSL ユーザードメイン ID 番号 3 の名前を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlLdapSslUserDomain.3
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlLdapSslUserDomain.3 = STRING: CN=
<USERNAME>,CN=Users,DC=davidc,DC=example,DC=sun,DC=com
```

- LDAP/SSL ユーザードメイン ID 番号 3 の名前を CN=<USERNAME>、CN=Users、DC=tomp、DC=example、DC=sun、DC=com に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlLdapSslUserDomain.3 s CN=<USERNAME>,CN=Users,DC=
tomp,DC=example,DC=sun,DC=com
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlLdapSslUserDomain.3 = STRING: CN=
<USERNAME>,CN=Users,DC=tomp,DC=example,DC=sun,DC=com
% snmpget -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlLdapSslUserDomain.3
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlLdapSslUserDomain.3 = STRING: CN=
<USERNAME>,CN=Users,DC=tomp,DC=example,DC=sun,DC=com
```

LDAP/SSL ユーザードメイン MIB オブジェクト

LDAP/SSL ユーザードメインの設定では、次の MIB オブジェクト、値、およびタイプが有効です。

表 3-15 LDAP/SSL ユーザードメイン設定で有効な MIB オブジェクト、値、およびタイプ

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlLdapSslUserDomainId	LDAP/SSL ドメインの整数表記の識別子。	1 ~ 5 注 - 読み取りや書き込みのためにこのオブジェクトにアクセスすることはできません。	整数型	none
ilomCtrlLdapSslUserDomain	この文字列は、LDAP/SSL サーバ上の認証ドメインと完全一致する必要があります。この文字列には、置換文字列 (<USERNAME>) が含まれている必要があります。この置換文字列は、認証時にユーザーのログイン名と置き換えられます。文字列では、原則の形式または識別名の形式を使用できます。	name (最大 255 文字)	文字列	none

▼ LDAP/SSL 代替サーバ設定の表示と構成

作業を開始する前に

- LDAP/SSL 代替サーバ設定の構成には、`get` コマンドおよび `set` コマンドを使用できます。この手順で使用される MIB オブジェクトの説明については、74 ページの「LDAP/SSL 代替サーバ MIB オブジェクト」および SUN-ILOM-CONTROL MIB を参照してください。

次の手順に従って、LDAP/SSL 代替サーバの設定を表示および構成します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
```

```
Password: password
```

2. 次に示す各 SNMP コマンドの例を参照してください。

- LDAP/SSL 代替サーバ ID 番号 3 の IP アドレスを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlLdapSslAlternateServerIp.3
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlLdapSslAlternateServerIp.3 =
IpAddress: 10.7.143.236
```

- LDAP/SSL 代替サーバ ID 番号 3 の IP アドレスを 10.7.143.246 に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlLdapSslAlternateServerIp.3 a 10.7.143.246
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlLdapSslAlternateServerIp.3 =
IpAddress: 10.7.143.246
% snmpget -v1 -cprivate -mALL SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlLdapSslAlternateServerIp.3
SUN-ILOM-CONTROL-MIB::ilomCtrlLdapSslAlternateServerIp.3 =
IpAddress: 10.7.143.246
```

- 代替サーバに関連付けられた証明書情報が true (真) に設定されたとき、証明書情報を表示およびクリアするには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlLdapSslAlternateServerCertClear.0
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlLdapSslAlternateServerCertClear.0 i 0
```

- 代替サーバの証明書ファイルの証明書バージョンを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlLdapSslAlternateServerCertVersion.0
```

- 代替サーバの証明書ファイルのシリアル番号を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlLdapSslAlternateServerCertSerialNo.0
```

- 代替サーバの証明書ファイルの発行元を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlLdapSslAlternateServerCertIssuer.0
```

- 代替サーバの証明書ファイルの対象者を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlLdapSslAlternateServerCertSubject.0
```

- 代替サーバの証明書ファイルの有効開始日付を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlLdapSslAlternateServerCertValidBegin.0
```

- 代替サーバの証明書ファイルの有効終了日付を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlLdapSslAlternateServerCertValidEnd.0
```

LDAP/SSL 代替サーバ MIB オブジェクト

LDAP/SSL 代替サーバ設定では、次の MIB オブジェクト、値、およびタイプが有効です。

表 3-16 LDAP/SSL 代替サーバ設定で有効な MIB オブジェクト、値、およびタイプ

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlLdap SslAlternate ServerId	LDAP/SSL 代替サーバテーブ ルの整数表記の識別子。	1 ~ 5 注 - 読み取りや書き 込みのためにこのオ ブジェクトにアクセ スすることはできま せん。	整数型	none
ilomCtrlLdap SslAlternate ServerIP	ユーザーアカウントに対する ディレクトリサーバとして使 用されている LDAP/SSL 代替 サーバの IP アドレス。	IP address	文字列	none
ilomCtrlLdap SslAlternate ServerPort	LDAP/SSL 代替サーバのポー ト番号を指定します。ポート 番号として 0 (ゼロ) を指定す ると、自動選択により既知の ポート番号が使用されます。 1 ~ 65535 の値を指定すると、 ポート番号を明示的に設定で きます。	ポート番号 (範囲: 0 ~ 65535)	整数型	none
ilomCtrlLdap SslAlternate ServerCert Status	証明書ファイルのステータスを 示す文字列。証明書ファイルが 存在するかどうかの確認に役立 ちます。	status (最大文字数: 255 文字)	文字列	none
ilomCtrlLdap SslAlternate ServerCert URI	厳密な証明書モードが有効に なっている場合に必要な証明書 ファイルの URI です。URI を設 定すると、ファイルが転送さ れ、証明書認証で証明書をすぐ に利用できます。また、証明 書を直接操作するために、 remove あるいは restore が サポートされます。	URI	文字列	none

RADIUS の設定

▼ RADIUS の設定

作業を開始する前に

- この手順を完了する前に、使用している RADIUS 環境に関する適切な情報を収集してください。
- RADIUS の設定には、`get` コマンドおよび `set` コマンドを使用できます。この手順で使用する MIB オブジェクトの説明については、77 ページの「RADIUS MIB オブジェクト」を参照してください。

次の手順に従って、RADIUS の設定を行います。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
Password: password
```

2. 次に示す各 SNMP コマンドの例を参照してください。

- RADIUS サーバが RADIUS ユーザーを認証できるように設定されているかどうかを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlRadiusEnabled.0
```

- RADIUS サーバのステータスを「有効」に設定し、RADIUS ユーザーを認証できるようにするには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlRadiusEnabled.0 i 1
```

- RADIUS サーバの IP アドレスを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlRadiusServerIP.0
```

- RADIUS サーバの IP アドレスを設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlRadiusServerIP.0 a ipaddress
```

- RADIUS サーバのポート番号を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlRadiusPortNumber.0
```

- RADIUS サーバのポート番号を設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlRadiusPortNumber.0 i portnumber
```

- RADIUS サーバの共有シークレットを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlRadiusSecret.0
```

- RADIUS サーバの共有シークレットを設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlRadiusSecret.0 s secret
```

- RADIUS サーバのデフォルトのユーザーの役割を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlRadiusDefaultRoles.0
```

- RADIUS サーバのデフォルトのユーザーの役割を console に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlRadiusDefaultRoles.0 s c
```

RADIUS MIB オブジェクト

RADIUS 設定では、次の MIB オブジェクト、値、およびタイプが有効です。

表 3-17 RADIUS 設定で有効な MIB オブジェクト、値、およびタイプ

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlRadius Enabled	RADIUS クライアントを有効にするかどうかを指定します。	true (1)、 false (2)	整数型	false
ilomCtrlRadius ServerIP	ユーザーアカウントのネームサービスとして使用される RADIUS サーバの IP アドレス。	IP address	文字列	none
ilomCtrlRadius PortNumber	RADIUS クライアントのポート番号を指定します。	ポート番号 (範囲: 0 ~ 65535)	整数型	1812
ilomCtrlRadius Secret	RADIUS クライアントとサーバとの間のトラフィックの暗号化に使用される、共有の秘密暗号化鍵。	秘密鍵 (最大文字数: 255 文字)	文字列	none
ilomCtrlRadius DefaultRoles	RADIUS 経由で認証されたユーザーに割り当てられる役割を指定します。このプロパティは、Administrator (管理者)、Operator (オペレータ) といった従来の表記の役割も、a、u、c、r、o、s といった単独で機能する役割 ID の組み合わせもサポートします。たとえば、「aucros」となっている場合、a は admin (管理者)、u は user (ユーザー)、c は console (コンソール)、r は reset (リセット)、o は read-only (読み取り専用)、s は service (サービス) を意味します。	administrator、 operator、 admin (a)、 user (u)、 console (c)、 reset (r)、 read-only (o)、 service (s)	文字列	none

第4章

インベントリと部品の管理

項目	
説明	リンク
事前条件の確認	<ul style="list-style-type: none">80 ページの「作業を開始する前に」
部品情報の表示およびインベントリの管理	<ul style="list-style-type: none">80 ページの「部品情報の表示」82 ページの「クロック設定の表示と設定」84 ページの「ILOM イベントログの表示とクリア」86 ページの「遠隔 syslog 受信側の IP アドレスの設定」
警告ルールの管理	<ul style="list-style-type: none">87 ページの「警告ルールの設定」
電子メール通知警告用の SMTP クライアントの設定	<ul style="list-style-type: none">89 ページの「電子メール通知警告用の SMTP クライアントの設定」
警告の設定	<ul style="list-style-type: none">91 ページの「電子メール警告設定の表示と構成」
遠隔測定ハーネスデーモンの設定	<ul style="list-style-type: none">92 ページの「遠隔測定ハーネスデーモン設定の表示と構成」

関連項目		
ILOM に関する項目	節	ガイド
• 概念	• システム監視と警告管理	『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』
• CLI	• 警告の管理	『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』
• Web	• 警告の管理	『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』

ILOM 3.0 の各種マニュアルは、
<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/> で入手
できます。

作業を開始する前に

- SNMP を使用して ILOM の設定を表示および構成するには、事前に SNMP を設定する必要があります。詳細は、3 ページの「SNMP の使用に向けたシステムの準備」を参照してください。
- `snmpset` コマンドを実行する場合、v1/v2c のコミュニティまたは読み取り/書き込み (rw) 権限を持つ v3 のユーザーを使用する必要があります。

注 – この節に掲載されるサンプル SNMP コマンドは、Net-SNMP サンプルアプリケーションに基づいているため、説明されているとおりに機能するのは Net-SNMP および Net-SNMP サンプルアプリケーションがインストールされている場合だけです。

部品情報の表示

項目

説明

リンク

部品情報の表示

- 80 ページの「部品情報の表示」
- 81 ページの「部品 MIB オブジェクト」

▼ 部品情報の表示

作業を開始する前に

- 部品情報の表示には、`get` コマンドを使用できます。この手順で使用する MIB オブジェクトの説明については、81 ページの「部品 MIB オブジェクト」を参照してください。

次の手順に従って、部品情報を表示します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ip_address
```

```
Password: password
```

2. ファームウェアバージョンを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ip_address  
entPhysicalFirmwareRev.1
```

部品 MIB オブジェクト

表 4-1 に、ENTITY-MIB が提供する、部品の表示に使用できる MIB オブジェクトのいくつかを一覧表示します。

表 4-1 部品設定のためのMIB オブジェクト、値、およびタイプ

MIB オブジェクト	説明	値	Type	デフォルト
entPhysicalName	物理エンティティのテキスト形式の名前。	文字数: 0..255	文字列	空文字列
entPhysicalDescr	物理エンティティのテキスト形式の説明。	文字数: 0..255	文字列	none
entPhysicalContainedIn	この物理エンティティを含む物理エンティティの entPhysicalIndex の値。値が「0」の場合、その物理エンティティはほかの物理エンティティに含まれていません。	範囲: 0..2147483647	整数型	none
entPhysicalClass	物理エンティティの一般的なハードウェアタイプを示す値。	other (1), unknown (2), chassis (3), backplane (4), container (5), powerSupply (6), fan (7), sensor (8), module (9), port (10), stack (11)	整数型	none
entPhysicalFirmwareRev	物理エンティティについてベンダーが独自に付けたファームウェアバージョンを示す文字列。	文字数: 0..255	文字列	空文字列

システムセンサー、インジケータ、および ILOM イベントログの監視

項目	
説明	リンク
クロック設定の表示と設定	• 82 ページの「クロック設定の表示と設定」
ILOM イベントログの表示とクリア	• 84 ページの「ILOM イベントログの表示とクリア」
遠隔 syslog 受信側の IP アドレスの設定	• 86 ページの「遠隔 syslog 受信側の IP アドレスの設定」
警告ルールの設定	• 87 ページの「警告ルールの設定」

▼ クロック設定の表示と設定

作業を開始する前に

- Network Time protocol (NTP) を使用した同期化に対するクロック設定情報の表示および設定には、`get` コマンドおよび `set` コマンドを使用できます。この手順で使用する MIB オブジェクトの説明については、[83 ページの「ILOM クロック設定 MIB オブジェクト」](#) を参照してください。

次の手順に従って、クロック設定を表示および構成します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ip_address
```

```
Password: password
```

2. 例として、次の各 SNMP コマンドを参照してください。

- NTP サーバの状態を表示するには、次のように入力します。

```
snmpget -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ip_address  
ilomCtrlNTPEnabled.0
```

- NTP サーバの状態を「有効」に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ip_address
ilomCtrlNTPEnabled.0 i 1
```

- デバイスの日付と時刻を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ip_address
ilomCtrlDateAndTime.0
```

- デバイスの日付と時刻を設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ip_address
ilomCtrlDateAndTime.0 s 2008-3-24,4:59:47.0
```

ILOM クロック設定 MIB オブジェクト

ILOM クロック設定では、次の MIB オブジェクト、値、およびタイプが有効です。

表 4-2 ILOM クロック設定で有効な MIB オブジェクト、値、およびタイプ

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlDateAndTime	デバイスの日付と時刻。	<i>date/time</i>	文字列	none
ilomCtrlNTPEnabled	Network Time Protocol を有効にするかどうかを指定します。	true (1)、 false (2)	整数型	false
ilomCtrlTimezone	設定されているタイムゾーンを表す文字列。	文字数: 0..255	文字列	none

▼ ILOM イベントログの表示とクリア

作業を開始する前に

- ILOM イベント ログの表示には `get` コマンド、設定には `set` コマンドを使用できません。この手順で使用する MIB オブジェクトの説明については、[85 ページの「ILOM イベントログ MIB オブジェクト」](#)を参照してください。

次の手順に従って、ILOM イベントログを表示およびクリアします。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ip_address
```

```
Password: password
```

2. レコード ID 2 のイベントログの ILOM イベントログタイプを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ip_address  
ilomCtrlEventLogType.2
```

3. ILOM イベントログをクリアするには、次のように入力します。

```
% snmpset -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ip_address  
ilomCtrlEventLogClear.0 i 1
```

ILOM イベントログ MIB オブジェクト

ILOM イベントログの設定では、次の MIB オブジェクト、値、およびタイプが有効です。

表 4-3 イベントログ設定の MIB オブジェクト、値、およびタイプ

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlEventLog RecordID	指定されたイベントログエントリのレコード番号。 注 - このオブジェクトにはアクセスできません。	範囲: 1..10000	整数型	none
ilomCtrlEventLog Type	イベントのタイプを表す整数値。 注 - このオブジェクトは、読み取り専用です。	log (1)、 action (2)、 fault (3)、 state (4)、 repair (5)	整数型	none
ilomCtrlEventLog Timestamp	イベントログエントリが記録された日時。 注 - このオブジェクトは、読み取り専用です。	<i>date/time</i>	文字列	none
ilomCtrlEventLog Class	イベントのクラスを表す整数値。 注 - このオブジェクトは、読み取り専用です。	audit (1)、 ipmi (2)、 chassis (3)、 fma (4)、 system (5) pcm (6)	整数型	none
ilomCtrlEventLog Severity	指定されたログエントリに対応するイベントの重要度。 注 - このオブジェクトは、読み取り専用です。	disable (1)、 critical (2)、 major (3)、 minor (4)、 down (5)	整数型	none
ilomCtrlEventLog Description	イベントのテキスト形式の説明。 注 - このオブジェクトは、読み取り専用です。	<i>description</i>	文字列	none
ilomCtrlEventLog Clear	このオブジェクトを true (真) に設定すると、イベントログがクリアされます。	true (1)、 false (2)	整数型	none

▼ 遠隔 syslog 受信側の IP アドレスの設定

作業を開始する前に

- 遠隔 syslog 受信側の IP アドレスの表示および設定には、`get` コマンドおよび `set` コマンドを使用できます。この手順で使用する MIB オブジェクトの説明については、86 ページの「遠隔 syslog 受信側の IP アドレス MIB オブジェクト」を参照してください。

次の手順に従って、遠隔 syslog 受信側の IP アドレスを表示および設定します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ip_address
```

```
Password: password
```

2. 遠隔 syslog 受信側の IP アドレスを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ip_address  
ilomCtrlRemoteSyslogDest1.0
```

3. 遠隔 syslog 受信側の IP アドレスを設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ip_address  
ilomCtrlRemoteSyslogDest1.0 s ip_address
```

遠隔 syslog 受信側の IP アドレス MIB オブジェクト

遠隔 syslog 受信側の IP アドレスについては、次の MIB オブジェクト、値、およびタイプが有効です。

表 4-4 遠隔 syslog 受信側の IP アドレスの MIB オブジェクト、値、およびタイプ

MIB オブジェクト	説明	値	Type	デフォルト
ilomCtrlRemoteSyslogDest1	最初の遠隔 syslog 受信側 (ログホスト) の IP アドレス。	<i>ip_address</i>	文字列	none
ilomCtrlRemoteSyslogDest2	2 番目の遠隔 syslog 受信側 (ログホスト) の IP アドレス。	<i>ip_address</i>	文字列	none

▼ 警告ルールの設定

作業を開始する前に

- 警告ルール構成の表示と設定には、`get` コマンドおよび `set` コマンドを使用できます。この手順で使用する MIB オブジェクトの説明については、[88 ページの「警告ルール設定 MIB オブジェクト」](#)を参照してください。

次の手順に従って、警告ルールを設定します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ip_address
```

```
Password: password
```

2. 警告 ID 2 の警告ルールの重要度レベルを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ip_address  
ilomCtrlAlertSeverity.2
```

3. 警告 ID 2 の警告ルールの重要度レベルを「クリティカル」に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ip_address  
ilomCtrlAlertSeverity.2 i 2
```

警告ルール設定 MIB オブジェクト

警告ルール設定では、次の MIB オブジェクト、値、およびタイプが有効です。

表 4-5 警告ルール設定の MIB オブジェクト、値、およびタイプ

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlAlert ID	指定された警告ルールに関連付けられた整数表記の ID。 注 - このオブジェクトにはアクセスできません。	範囲: 0..65535	整数型	none
ilomCtrlAlert Severity	イベントの下限重要度を指定します。指定されたクラスでこの重要度以上のイベントが発生すると警告が生成されます。	disable (1), critical (2), major (3), minor (4), down (5)	整数型	none
ilomCtrlAlert Type	指定された警告の通知タイプを指定します。タイプが SNMP トラップ (2) または IPMI プラットフォームイベントトラップ (3) の場合は、ilomCtrlAlert Destinationip を指定する必要があります。タイプが 電子メール (1) の場合は、ilomCtrlAlert DestinationEmail を指定する必要があります。	email (1) snmptrap (2) ipmipet (3) remotesyslog (4)	整数型	none
ilomCtrlAlert Destinationip	警告タイプが SNMP トラップ (2)、IPMI プラットフォームイベントトラップ (3)、または遠隔 Syslog (4) の場合に警告通知の送信先になる IP アドレスを指定します。	ip_address	文字列	none
ilomCtrlAlert Destination Email	警告タイプが電子メール (1) の場合に警告通知の送信先になる電子メールアドレスを指定します。	email address、 文字数: 0..255	文字列	none
ilomCtrlAlert SNMPVersion	指定された警告ルールで使用する SNMP トラップのバージョンを指定します。	v1 (1)、v2c (2)、 v3 (3)	整数型	none

表 4-5 警告ルール設定の MIB オブジェクト、値、およびタイプ (続き)

MIB オブジェクト	説明	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlAlertSNMPCommunityOrUsername	ilomCtrlAlertSNMPVersion プロパティーが v1 (1) または v2c (2) に設定されている場合に使用するコミュニティ文字列を指定します。 ilomCtrlAlertSNMPVersion が v3 (3) に設定されている場合に使用する SNMP ユーザー名を指定します。	文字数: 0..255	文字列	none
ilomCtrlAlertEmailEventClassFilter	電子メールで送信される警告をフィルタリングする際に対象になるクラス名。「all」クラス名を指定することもできます。	文字数: 0..255	文字列	none
ilomCtrlAlertEmailEventTypeFilter	電子メールで送信される警告をフィルタリングする際に対象になるクラス名。「all」クラス名を指定することもできます。	文字数 0 ~ 255	文字列	none

電子メール通知警告用の SMTP クライアントの設定

設定済みの電子メール通知警告を生成するには、ILOM クライアントが SMTP クライアントとして動作し、電子メール警告メッセージを送信できるようにする必要があります。ILOM クライアントを SMTP クライアントとして有効にするには、電子メール通知を処理する送信 SMTP 電子メールサーバの IP アドレスとポート番号を指定する必要があります。

▼ 電子メール通知警告用の SMTP クライアントの設定

作業を開始する前に

- ILOM クライアントを SMTP クライアントとして有効にする前に、送信 SMTP 電子メールサーバの IP アドレスとポート番号を収集してください。
- SMTP クライアントの設定には、get コマンドおよび set コマンドを使用できます。この手順で使用される MIB オブジェクトの説明については、91 ページの「SMTP クライアント MIB オブジェクト」および SUN-ILOM-CONTROL-MIB を参照してください。

次の手順に従って、SMTP クライアントを設定します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。
たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ip_address
```

```
Password: password
```

2. 例として、次の各 SNMP コマンドを参照してください。

- SMTP クライアントの状態を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ip_address  
ilomCtrlSMTPEnabled.0
```

- SMTP クライアントの状態を有効に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ip_address  
ilomCtrlSMTPEnabled.0 i 1
```

- SMTP サーバの IP アドレスを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ip_address  
ilomCtrlSMTPServerip.0
```

- SMTP サーバの IP アドレスを設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ip_address  
ilomCtrlSMTPServerip.0 s ip_address
```

- SMTP クライアントのポート番号を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ip_address  
ilomCtrlSMTPPortNumber.0
```

- SMTP クライアントのポート番号を設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -v2c -cprivate -mALL SNMP_agent_ip_address  
ilomCtrlSMTPPortNumber.0 i 25
```

- 送信者または「送信元」のアドレスを特定する、省略可能な書式を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSMTPCustomSender.0
```

- 送信者または「送信元」のアドレスを特定する、省略可能な書式を設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSMTPCustomSender.0 s 'ilom-alert@HOSTNAME.abc.com'
```

SMTP クライアント MIB オブジェクト

SMTP クライアントについては、次の MIB オブジェクト、値、およびタイプが有効な設定です。

表 4-6 SMTP クライアントで有効な MIB オブジェクト、値、およびタイプ

MIB オブジェクト	プロパティ	許可される値	Type	デフォルト
ilomCtrlSMTP Enabled	SMTP クライアントを有効にするかどうかを指定します。	true(1)、 false(2)	整数型	false
ilomCtrlSMTP Serverip	ユーザーアカウントのネームサービスとして使用される SMTP サーバの IP アドレス。	<i>ip_address</i>	文字列	none
ilomCtrlSMTP PortNumber	SMTP クライアントのポート番号を指定します。	範囲: 0..65535	整数型	none

電子メール警告の設定

▼ 電子メール警告設定の表示と構成

作業を開始する前に

- 電子メール警告設定の表示および構成には、get コマンドおよび set コマンドを使用できます。これらのコマンドで使用される MIB オブジェクトの説明については、SUN-ILOM-CONTROL MIB を参照してください。

次の手順に従って、電子メール警告設定を表示および構成します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
```

```
Password: password
```

2. 次に示す各 SNMP コマンドの例を参照してください。

- 送信者または「送信元」のアドレスの識別に使用する、省略可能な書式を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlAlertEmailCustomSender.0
```

- 送信者または「送信元」のアドレスの識別に使用する書式 (省略可能) を設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlAlertEmailCustomSender.0 s 'ilom-
alert@HOSTNAME.abc.com'
```

- メッセージ本文の先頭に追加できる文字列 (省略可能) を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlAlertEmailMessagePrefix.0
```

- メッセージ本文の先頭に追加できる文字列 (省略可能。例: BeginMessage) を定義するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress
ilomCtrlAlertEmailMessagePrefix.0 s 'BeginMessage'
```

▼ 遠隔測定ハーネスデーモン設定の表示と構成

作業を開始する前に

- 遠隔測定ハーネスデーモン (THD) 設定の表示および構成には、get コマンドおよび set コマンドを使用できます。これらのコマンドで使用される MIB オブジェクトの説明については、SUN-ILOM-CONTROL MIB を参照してください。

次の手順に従って、THD 設定を表示および構成します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
Password: password
```

2. 次に示す各 SNMP コマンドの例を参照してください。

- THD デーモンの状態を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlThdState.0
```

- THD デーモンの制御動作を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlThdAction.0
```

- THD デーモンの制御動作を「suspend (一時停止)」に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlThdAction.0 i 1
```

- THDMod1 という名前の THD モジュールの説明を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlThdModuleDesc.'THDMod1'
```

- THDMod1 という名前の THD モジュールの状態を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlThdModuleState.'THDMod1'
```

- THDMod1 という名前の THD モジュールの制御動作を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlThdModuleAction.'THDMod1'
```

- THDMod1 という名前の THD モジュールの制御動作を「suspend (一時停止)」に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlThdModuleAction.0 i 1
```

- myTHDclass という名前の THD クラスに所属し、myTHDinstance という名前の THD インスタンスの状態を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlThdInstanceState.'myTHDclass.myTHDinstance'
```

- myTHDclass という名前の THD クラスに所属し、myTHDinstance という名前の THD インスタンスの動作を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlThdInstanceAction.'myTHDclass.myTHDinstance'
```

- myTHDclass という名前の THD クラスに所属し、myTHDinstance という名前の THD インスタンスの動作を「resume (再開)」に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlThdInstanceAction.'myTHDclass.myTHDinstance' i 2
```

第5章

消費電力の監視

項目	
説明	リンク
事前条件の確認	<ul style="list-style-type: none">96 ページの「作業を開始する前に」
消費電力インタフェースの監視	<ul style="list-style-type: none">97 ページの「システムの合計消費電力の監視」97 ページの「実際の消費電力の監視」97 ページの「個々の電源装置の消費電力の監視」99 ページの「使用可能な電力の監視」99 ページの「ハードウェア構成の最大消費電力の監視」99 ページの「許容消費電力の監視」99 ページの「電力管理設定の監視」
電力ポリシーの表示と設定	<ul style="list-style-type: none">101 ページの「電力ポリシーの表示と設定」

関連項目		
ILOM に関する項目	節	ガイド
• 概念	• 電源監視および管理インタフェース	『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』
• Web	• 消費電力の監視	『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』
• CLI	• 消費電力の監視	『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』

ILOM 3.0 の各種マニュアルは、
<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/> で入手
できます。

作業を開始する前に

この章の手順を開始する前に、必ず、次の要件が満たされていることを確認してください。

- SNMP を使用して ILOM の設定を表示および構成するには、事前に SNMP を設定する必要があります。詳細は、[3 ページの「SNMP の使用に向けたシステムの準備」](#)を参照してください。
- snmpset コマンドを実行するには、SNMP v1 または v2c のコミュニティーあるいは読み取り/書き込み (rw) 権限を持つ SNMP v3 のユーザーを使用する必要があります。

注 – この節に掲載されるサンプル SNMP コマンドは、Net-SNMP サンプルアプリケーションに基づいているため、説明されているとおりに機能するのは Net-SNMP および Net-SNMP サンプルアプリケーションがインストールされている場合だけです。

消費電力インタフェースの監視

項目	リンク
消費電力インタフェースの監視	<ul style="list-style-type: none">• 97 ページの「システムの合計消費電力の監視」• 97 ページの「実際の消費電力の監視」• 97 ページの「個々の電源装置の消費電力の監視」• 99 ページの「使用可能な電力の監視」• 99 ページの「ハードウェア構成の最大消費電力の監視」• 99 ページの「許容消費電力の監視」
電力ポリシーの表示と設定	<ul style="list-style-type: none">• 101 ページの「電力ポリシーの表示と設定」

注 – この章で説明する消費電力インタフェースは、使用しているプラットフォームによっては、実装されている場合と実装されていない場合があります。実装の詳細については、プラットフォーム固有の ILOM の補足マニュアルまたはプロダクトノートを参照してください。これらの資料は、システムに付属のマニュアルセットに含まれています。

▼ システムの合計消費電力の監視

- SNMP を使用してシステムの合計消費電力を表示するには、次のコマンドを入力します。

```
% snmpget -v2c -cprivate -mALL snmp_agent_ipaddress  
entPhysicalName.308
```

▼ 実際の消費電力の監視

- SNMP を使用して実際の消費電力を監視するには、次のコマンドを入力します。

```
% snmpget -v2c -cprivate -mALL snmp_agent_ipaddress  
sunHwCtrlPowerMgmtActual.0
```

▼ 個々の電源装置の消費電力の監視

SNMP を使用して個々の電源装置の消費電力を監視するには、事前に、特定の電源装置の出力センサーと入力センサーに対応する `entPhysicalName` インデックス番号を確認する必要があります。

- 個々の電源装置の消費電力を表示するには、次のようなコマンドを入力します。
たとえば、`/SYS/VPS` の `entPhysicalIndex` が 303 であることが分かっている場合は、次のコマンドを入力すれば合計の消費電力を表示できます。

```
% snmpget -v2c -cprivate -mALL snmp_agent_ipaddress \  
entPhysicalName.303 \  
entPhysicalClass.303 \  
entPhysicalDescr.303 \  
sunPlatNumericSensorBaseUnits.303 \  
sunPlatNumericSensorExponent.303 \  
sunPlatNumericSensorCurrent.303 \  
sunPlatNumericSensorLowerThresholdNonCritical.303 \  
sunPlatNumericSensorUpperThresholdNonCritical.303 \  
sunPlatNumericSensorLowerThresholdCritical.303 \  
sunPlatNumericSensorUpperThresholdCritical.303 \  
sunPlatNumericSensorLowerThresholdFatal.303 \  
sunPlatNumericSensorUpperThresholdFatal.303
```

表 5-1 では、上記のコマンド例に含まれる各 MIB オブジェクトについて簡単に説明します。詳細については、ENTITY-MIB および SUN-PLATFORM-MIB を参照してください。

表 5-1 個々の電源装置の消費電力に関する MIB オブジェクト

MIB オブジェクト	MIB Name	説明
entPhysicalName	ENTITY-MIB	物理エンティティのテキスト形式の名前。
entPhysicalClass	ENTITY-MIB	物理エンティティの一般的なハードウェアタイプ。
entPhysicalDescr	ENTITY-MIB	物理エンティティのテキスト形式の説明。
sunPlatNumericSensorBaseUnits	SUN-PLATFORM-MIB	このセンサーによって返される値の基本単位。CIM_NumericSensor.BaseUnits に基づきます。
sunPlatNumericSensorExponent	SUN-PLATFORM-MIB	このセンサーによって返される単位に適用される指数。CIM_NumericSensor.UnitModifier に基づきます。
sunPlatNumericSensorCurrent	SUN-PLATFORM-MIB	センサーの現在の読み取り値に対応する、sunPlatDiscreteSensorStatesTable 内の行の sunPlatDiscreteSensorStatesIndex。
sunPlatNumericSensorLowerThresholdNonCritical	SUN-PLATFORM-MIB	下側のしきい値を意味し、この値に達すると NonCritical 状態が発生します。しきい値は CIM_NumericSensor.LowerThresholdNonCritical で定義します。
sunPlatNumericSensorUpperThresholdNonCritical	SUN-PLATFORM-MIB	上側のしきい値を意味し、この値に達すると NonCritical 状態が発生します。しきい値は CIM_NumericSensor.UpperThresholdNonCritical で定義します。
sunPlatNumericSensorLowerThresholdCritical	SUN-PLATFORM-MIB	下側のしきい値を意味し、この値に達すると Critical 状態が発生します。しきい値は CIM_NumericSensor.LowerThresholdCritical で定義します。
sunPlatNumericSensorUpperThresholdCritical	SUN-PLATFORM-MIB	上側のしきい値を意味し、この値に達すると Critical 状態が発生します。しきい値は CIM_NumericSensor.UpperThresholdCritical で定義します。
sunPlatNumericSensorLowerThresholdFatal	SUN-PLATFORM-MIB	下側のしきい値を意味し、この値に達すると Fatal 状態が発生します。しきい値は CIM_NumericSensor.LowerThresholdFatal で定義します。
sunPlatNumericSensorUpperThresholdFatal	SUN-PLATFORM-MIB	上側のしきい値を意味し、この値に達すると Fatal 状態が発生します。しきい値は CIM_NumericSensor.UpperThresholdFatal で定義します。

▼ 使用可能な電力の監視

- SNMP を使用して使用可能な合計電力を表示するには、次のコマンドを入力します。

```
% snmpget -v2c -cprivate -mALL snmp_agent_ipaddress  
sunHwCtrlPowerMgmtAvailablePower.0
```

▼ ハードウェア構成の最大消費電力の監視

- SNMP を使用してハードウェア構成の最大消費電力を表示するには、次のコマンドを入力します。

```
% snmpget -v2c -cprivate -mALL snmp_agent_ipaddress  
sunPlatCtrlPowerMgmtHWConfigPower.0
```

▼ 許容消費電力の監視

- SNMP を使用して許容消費電力を表示するには、次のコマンドを入力します。

```
% snmpget -v2c -cprivate -mALL snmp_agent_ipaddress  
sunHwCtrlPowerMgmtPermittedPower.0
```

▼ 電力管理設定の監視

作業を開始する前に

- 電力管理設定の表示には、get コマンドを使用できます。ここで説明するコマンドで使用される MIB オブジェクトの説明については、SUN-HW-CTRL-MIB を参照してください。

次の手順に従って、電力管理設定を表示します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress  
Password: password
```

2. 次に示す各 SNMP コマンドの例を参照してください。

- PowerMgmtTable インデックス番号 5 の電力管理ポリシーの名前を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
sunHwCtrlPowerMgmtName.5
```

- PowerMgmtTable インデックス番号 5 の電力管理ポリシーの値の単位を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
sunHwCtrlPowerMgmtUnits.5
```

- PowerMgmtTable インデックス番号 5 の電力管理ポリシーの値を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
sunHwCtrlPowerMgmtValue.5
```

消費電力制御インタフェースの使用法

項目	
説明	リンク
電力ポリシーの表示と設定	<ul style="list-style-type: none">• 101 ページの「電力ポリシーの表示と設定」

▼ 電力ポリシーの表示と設定

作業を開始する前に

- 電力ポリシーの表示と設定には、get コマンドおよび set コマンドを使用できません。

1. SNMP を使用して電力ポリシーを表示するには、次のコマンドを入力します。

```
% snmpget -v2c -cprivate -mALL snmp_agent_ipaddress  
sunHwCtrlPowerMgmtPolicy.0
```

2. 電力ポリシーを設定するには、snmpset コマンドを使用します。

たとえば、この MIB オブジェクトを performance (パフォーマンス) に設定する場合は、次のコマンドを入力します。

```
% snmpset -v2c -cprivate -mALL snmp_agent_ipaddress  
sunHwCtrlPowerMgmtPolicy.0 i 3
```

表 5-2 に、sunHwCtrlPowerMgmtPolicy MIB オブジェクトでサポートされる MIB オブジェクトのタイプと値を示します。

表 5-2 sunHwCtrlPowerMgmtPolicy MIB オブジェクトの有効な値とタイプ

MIB オブジェクト	値	Type	デフォルト
sunHwCtrlPowerMgmtPolicy	notsupported(1)、 unknown(2)、 performance(3)、 elastic(4)	整数型	none

第6章

ILOM ファームウェア設定の構成

項目

説明	リンク
事前条件の確認	<ul style="list-style-type: none">• 104 ページの「作業を開始する前に」
ILOM ファームウェアインタフェースの設定	<ul style="list-style-type: none">• 104 ページの「ILOM ファームウェア設定の表示と構成」

関連項目

ILOM に関する項目	節	ガイド
• 概念	• 設定の管理とファームウェアの更新	『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』
• Web	• ILOM ファームウェアの更新	『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』
• CLI	• ILOM ファームウェアの更新	『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』

ILOM 3.0 の各種マニュアルは、
<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/> で入手できます。

作業を開始する前に

この章の手順を開始する前に、必ず、次の要件が満たされていることを確認してください。

- SNMP を使用して ILOM の設定を表示および構成するには、事前に SNMP を設定する必要があります。詳細は、3 ページの「SNMP の使用に向けたシステムの準備」を参照してください。
- `snmpset` コマンドを実行するには、SNMP v1 または v2c のコミュニティーあるいは読み取り/書き込み (rw) 権限を持つ SNMP v3 のユーザーを使用する必要があります。

注 – この節に掲載されるサンプル SNMP コマンドは、Net-SNMP サンプルアプリケーションに基づいているため、説明されているとおりに機能するのは Net-SNMP および Net-SNMP サンプルアプリケーションがインストールされている場合だけです。

ILOM ファームウェアインタフェースの設定

▼ ILOM ファームウェア設定の表示と構成

作業を開始する前に

- ILOM ファームウェア設定の表示と構成には、`get` コマンドおよび `set` コマンドを使用できます。これらのコマンドで使用される MIB オブジェクトの説明については、SUN-ILOM-CONTROL MIB を参照してください。

次の手順に従って、ILOM ファームウェア設定を表示および構成します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
Password: password
```

2. 次に示す各 SNMP コマンドの例を参照してください。

- 現在のファームウェアイメージのバージョンを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlFirmwareMgmtVersion.0
```

- 現在のファームウェアイメージのビルド番号を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlFirmwareMgmtBuildNumber.0
```

- 現在のファームウェアイメージのビルド日時を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlFirmwareMgmtBuildDate.0
```

- ファームウェアイメージのダウンロードに使用する TFTP サーバの IP アドレスを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlFirmwareTFTPServerIP.0
```

- ファームウェアイメージのダウンロードに使用する TFTP サーバの IP アドレスを設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlFirmwareTFTPServerIP.0 s ipaddress
```

- TFTP サーバ上の新しいファームウェアイメージファイルの相対パスを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlFirmwareTFTPFileName.0
```

- TFTP サーバ上の新しいファームウェアイメージファイルの相対パスを設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlFirmwareTFTPFileName.0 s 'tftpfilename'
```

- ファームウェアの更新後に以前のサーバ設定を保持するかどうか決定するプロパティを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlFirmwarePreserveConfig.0
```

- PreserveConfig プロパティを「true (真)」に設定して、ファームウェアの更新後も以前のサーバ設定を保持するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlFirmwarePreserveConfig.0 i 1
```

- ファームウェア更新のステータスを示すプロパティを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlFirmwareMgmtStatus.0
```

- その他のファームウェア管理プロパティの値をパラメータとして使用して、ファームウェア更新の開始に使用するプロパティを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlFirmwareMgmtAction.0
```

- その他のファームウェア管理プロパティの値をパラメータとして使用して、ファームウェア更新を開始するようにプロパティを設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlFirmwareMgmtAction.0 i 2
```

- ファームウェア更新が開始された場合にその時点で、使用された残りのファームウェア管理プロパティの値をクリアするには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlFirmwareMgmtAction.0 i 1
```

- 現在のファームウェア管理ファイルシステムのバージョンを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlFirmwareMgmtFilesystemVersion.0
```

- サーバの次回の電力切断まで BIOS アップグレードを延期するために使用されるプロパティを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlFirmwareDelayBIOS.0
```

注 – DelayBIOS プロパティを表示および設定するためのコマンドは、SPARC サーバではサポートされていません。

- DelayBIOS プロパティを設定して、サーバの次回の電力切断まで BIOS アップグレードを延期するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlFirmwareDelayBIOS.0 i 1
```

注 – DelayBIOS プロパティを表示および設定するためのコマンドは、SPARC サーバではサポートされていません。

第7章

ILOM 設定の管理

項目

説明	リンク
事前条件の確認	<ul style="list-style-type: none">• 110 ページの「作業を開始する前に」
ILOM 設定管理インタフェースの構成	<ul style="list-style-type: none">• 111 ページの「ポリシー設定の表示と構成」• 112 ページの「電力設定の構成」• 112 ページの「バックアップおよび復元の設定の表示と構成」• 114 ページの「リセット設定の構成」

関連項目

ILOM に関する項目	節	ガイド
• 概念	• 設定の管理とファームウェアの更新	『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』
• Web	• ILOM 設定のバックアップと復元	『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』
• CLI	• ILOM 設定のバックアップと復元	『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』

ILOM 3.0 の各種マニュアルは、
<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/> で入手
できます。

作業を開始する前に

この章の手順を開始する前に、必ず、次の要件が満たされていることを確認してください。

- SNMP を使用して ILOM の設定を表示および構成するには、事前に SNMP を設定する必要があります。詳細は、3 ページの「SNMP の使用に向けたシステムの準備」を参照してください。
- snmpset コマンドを実行するには、SNMP v1 または v2c のコミュニティーあるいは読み取り/書き込み (rw) 権限を持つ SNMP v3 のユーザーを使用する必要があります。

注 – この節に掲載されるサンプル SNMP コマンドは、Net-SNMP サンプルアプリケーションに基づいているため、説明されているとおりに機能するのは Net-SNMP および Net-SNMP サンプルアプリケーションがインストールされている場合だけです。

ILOM 設定管理インタフェースの設定

項目

説明

リンク

ILOM 設定管理インタフェースの構成

- [111 ページの「ポリシー設定の表示と構成」](#)
 - [112 ページの「電力設定の構成」](#)
 - [112 ページの「バックアップおよび復元の設定の表示と構成」](#)
 - [114 ページの「リセット設定の構成」](#)
-

▼ ポリシー設定の表示と構成

作業を開始する前に

- ポリシー設定の表示と構成には、get コマンドおよび set コマンドを使用できます。これらのコマンドで使用される MIB オブジェクトの説明については、SUN-ILOM-CONTROL MIB を参照してください。

次の手順に従って、ポリシー設定を表示および構成します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
```

```
Password: password
```

2. 次に示す各 SNMP コマンドの例を参照してください。

- ポリシー ID 番号 2 のポリシーの簡単な説明を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlPolicyShortStr.2
```

- ポリシー ID 番号 2 のポリシーの詳細な説明を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlPolicyLongStr.2
```

- ポリシー ID 番号 2 のポリシーのステータスを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlPolicyEnabled.2
```

- ポリシー ID 番号 2 のポリシーのステータスを「有効」に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlPolicyEnabled.2 i 1
```

▼ 電力設定の構成

作業を開始する前に

- 電力設定の構成には、set コマンドを使用できます。このコマンドで使用される MIB オブジェクトの説明については、SUN-ILOM-CONTROL-MIB を参照してください。

次の手順に従って、電力設定を構成します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
```

```
Password: password
```

2. 次に示す SNMP コマンドの例を参照してください。

- 「powerOn (電源投入)」操作を指定して、電力制御ターゲット「/SYS」に適用するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlPowerAction.'/SYS' i 1
```

▼ バックアップおよび復元の設定の表示と構成

作業を開始する前に

- バックアップおよび復元の設定の表示および構成には、get コマンドおよび set コマンドを使用できます。これらのコマンドで使用される MIB オブジェクトの説明については、SUN-ILOM-CONTROL MIB を参照してください。

次の手順に従って、バックアップおよび復元の設定を表示および構成します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
```

```
Password: password
```

2. 次に示す各 SNMP コマンドの例を参照してください。

- SP 上の構成を出荷時のデフォルト状態に戻すには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlResetToDefaultsAction.0 i 3
```

- バックアップおよび復元操作中に使用する設定用 XML ファイルのターゲット宛先を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
lomCtrlBackupAndRestoreTargetURI.0
```

- バックアップおよび復元操作中に使用する設定用 XML ファイルのターゲット宛先を tftp://10.8.136.154/remotedir/config_backup.xml に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
lomCtrlBackupAndRestoreTargetURI.0 s  
'tftp://10.8.136.154/remotedir/config_backup.xml'
```

- バックアップおよび復元操作中に機密データを暗号化または復号化するためのパスフレーズを設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlBackupAndRestorePassphrase.0 s 'passphrase'
```

- バックアップ操作または復元操作を発行するために使用するプロパティを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlBackupAndRestoreAction.0
```

- ilomCtrlBackupAndRestoreAction MIB オブジェクトを使用して復元操作を発行するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlBackupAndRestoreAction.0 i 2
```

- バックアップ操作または復元操作の現在のステータスを監視するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlBackupAndRestoreActionStatus.0
```

▼ リセット設定の構成

作業を開始する前に

- リセット設定の構成には、set コマンドを使用できます。このコマンドで使われる MIB オブジェクトの説明については、SUN-ILOM-CONTROL-MIB を参照してください。

次の手順に従って、リセット設定を構成します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
```

```
Password: password
```

2. 次に示す SNMP コマンドの例を参照してください。

- 「reset (リセット)」操作を指定して、リセット制御ターゲット「/SP」に適用するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlResetAction.'/SP' i 1
```

第8章

SPARC システム設定の管理

項目

説明	リンク
事前条件の確認	<ul style="list-style-type: none">• 116 ページの「作業を開始する前に」
SPARC 管理インタフェース	<ul style="list-style-type: none">• 117 ページの「SPARC 診断設定の表示と構成」• 120 ページの「SPARC ホスト設定の表示と構成」• 124 ページの「SPARC 起動モード設定の表示と構成」• 125 ページの「SPARC キースイッチ設定の表示と構成」

関連項目

ILOM に関する項目	節	ガイド
<ul style="list-style-type: none">• 概念	<ul style="list-style-type: none">• 遠隔ホスト管理オプション	『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』
<ul style="list-style-type: none">• Web	<ul style="list-style-type: none">• 遠隔ホストの管理	『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』
<ul style="list-style-type: none">• CLI	<ul style="list-style-type: none">• 遠隔ホストの管理	『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』

ILOM 3.0 の各種マニュアルは、
<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/> で入手
できます。

作業を開始する前に

この章の手順を開始する前に、必ず、次の要件が満たされていることを確認してください。

- SNMP を使用して ILOM の設定を表示および構成するには、事前に SNMP を設定する必要があります。詳細は、[3 ページの「SNMP の使用に向けたシステムの準備」](#)を参照してください。
- snmpset コマンドを実行するには、SNMP v1 または v2c のコミュニティあるいは読み取り/書き込み (rw) 権限を持つ SNMP v3 のユーザーを使用する必要があります。

注 - この節に掲載されるサンプル SNMP コマンドは、Net-SNMP サンプルアプリケーションに基づいているため、説明されているとおりに機能するのは Net-SNMP および Net-SNMP サンプルアプリケーションがインストールされている場合だけです。

SPARC 管理インタフェースの設定

項目	
説明	リンク
事前条件の確認	<ul style="list-style-type: none">• 116 ページの「作業を開始する前に」
SPARC 管理インタフェース	<ul style="list-style-type: none">• 117 ページの「SPARC 診断設定の表示と構成」• 120 ページの「SPARC ホスト設定の表示と構成」• 124 ページの「SPARC 起動モード設定の表示と構成」• 125 ページの「SPARC キースイッチ設定の表示と構成」

▼ SPARC 診断設定の表示と構成

作業を開始する前に

- SPARC 診断設定の表示および構成には、`get` コマンドおよび `set` コマンドを使用できます。これらのコマンドで使用される MIB オブジェクトの説明については、SUN-ILOM-CONTROL MIB を参照してください。

次の手順に従って、SPARC 診断設定を表示および構成します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
```

```
Password: password
```

2. 次に示す各 SNMP コマンドの例を参照してください。

- ホストの組み込み診断機能のトリガーを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCDiagsTrigger.0
```

- ホストの組み込み診断機能のトリガーを「powerOnReset」に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCDiagsTrigger.0 i 4
```

- POST のモードを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCDiagsMode.0
```

- POST モードを「service (サービス)」に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCDiagsMode.0 i 3
```

- power-on-reset (電源投入リセット) トリガーの場合に起動中のホストで実行する組み込み診断機能のレベルを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCDiagsPowerOnLevel.0
```

- power-on-reset (電源投入リセット) トリガーの場合に起動中のホストで実行する組み込み診断機能のレベルを「normal (標準)」に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCDiagsPowerOnLevel.0 i 3
```

- user-reset (ユーザーリセット) トリガーの場合に起動中のホストで実行する組み込み診断機能のレベルを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCDiagsUserResetLevel.0
```

- user-reset (ユーザーリセット) トリガーの場合に起動中のホストで実行する組み込み診断機能のレベルを「normal (標準)」に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCDiagsUserResetLevel.0 i 3
```

- error-reset (エラーリセット) トリガーの場合に起動中のホストで実行する組み込み診断機能のレベルを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCDiagsErrorResetLevel.0
```

- error-reset (エラーリセット) トリガーの場合に起動中のホストで実行する組み込み診断機能のレベルを「normal (標準)」に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCDiagsErrorResetLevel.0 i 3
```

- 起動中のホストで実行する組み込み診断機能の詳細レベルを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCDiagsPowerOnVerbosity.0
```

- 起動中のホストで実行する組み込み診断機能の詳細レベルを「maximum (最大)」に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCDiagsPowerOnVerbosity.0 i 4
```

- user-reset (ユーザーリセット) トリガーの場合に起動中のホストで実行する組み込み診断機能の詳細レベルを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCDiagsUserResetVerbosity.0
```

- user-reset (ユーザーリセット) トリガーの場合に起動中のホストで実行する組み込み診断機能の詳細レベルを「maximum (最大)」に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCDiagsUserResetVerbosity.0 i 4
```

- error-reset (エラーリセット) トリガーの場合に起動中のホストで実行する組み込み診断機能の詳細レベルを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCDiagsErrorResetVerbosity.0
```

- error-reset (エラーリセット) トリガーの場合に起動中のホストで実行する組み込み診断機能の詳細レベルを「maximum (最大)」に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCDiagsErrorResetVerbosity.0 i 4
```

- ホスト上の POST 診断の進行状況をパーセント形式で表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCDiagsStatus.0
```

- ホスト上で POST 診断を制御するための操作を示すプロパティを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCDiagsAction.0
```

- ホスト上で実行される POST 診断を制御するためのプロパティを「start (開始)」に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCDiagsAction.0 i 2
```

▼ SPARC ホスト設定の表示と構成

作業を開始する前に

- SPARC ホスト設定の表示と構成には、get コマンドおよび set コマンドを使用できます。これらのコマンドで使用される MIB オブジェクトの説明については、SUN-ILOM-CONTROL MIB を参照してください。

次の手順に従って、SPARC ホスト設定を表示および構成します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
```

```
Password: password
```

2. 次に示す各 SNMP コマンドの例を参照してください。

- ホストの開始 MAC アドレスを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCHostMACAddress.0
```

- OpenBoot PROM (OBP) のバージョン文字列を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCHostOBPVersion.0
```

- POST のバージョン文字列を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCHostPOSTVersion.0
```

- 致命的なもの以外の POST エラーが発生した場合にホストをそのまま起動させるかどうかを決定するオプションを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCHostAutoRunOnError.0
```

- 致命的なもの以外の POST エラーが発生した場合にそのまま起動するようにホストを設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCHostAutoRunOnError.0 i 1
```

- POST のステータスを記述する文字列を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCHostPOSTStatus.0
```

- ホストがハングしていることが分かった場合に SP が行う動作を決定するオプションを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCHostAutoRestartPolicy.0
```

- ホストがハングしていることが分かった場合にリセットするように SP を設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCHostAutoRestartPolicy.0 i 2
```

- ホストオペレーティングシステムの起動ステータスを記述する文字列を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCHostOSBootStatus.0
```

- ブートタイマーのタイムアウト値を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCHostBootTimeout.0
```

- ブートタイマーのタイムアウト値を 30 秒に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCHostBootTimeout.0 i 30
```

- ブートタイマーが時間切れになったときに SP が行う動作を決定するプロパティを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCHostBootRestart.0
```

- ブートタイマーが時間切れになったときにリセットするように SP を設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCHostBootRestart.0 i 2
```

- SP が許容する起動の失敗回数の最大値を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCHostMaxBootFail.0
```

- SP が許容する起動の失敗回数の最大値を 10 に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCHostMaxBootFail.0 i 10
```

- 起動の失敗回数が最大値に達したときに SP が行う動作を決定するプロパティを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCHostBootFailRecovery.0
```

- 起動の失敗回数が最大値に達したときにホストに電源を再投入するように SP を設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCHostBootFailRecovery.0 i 2
```

- ハイパーバイザのバージョン文字列を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCHostHypervisorVersion.0
```

- システムファームウェア (SysFw) のバージョン文字列を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCHostSysFwVersion.0
```

- SP が送信するブレイクアクションを決定するプロパティーを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCHostSendBreakAction.0
```

- dumpcore ブレイクアクションを送信するように SP を設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCHostSendBreakAction.0 i 3
```

- 次回にホストの電源を投入するときに適用される ホスト I/O 再設定ポリシーを決定するプロパティーを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCHostIoReconfigurePolicy.0
```

- 次回にホストの電源を投入するときにホスト I/O 再設定ポリシーを実行するように SP を設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCHostIoReconfigurePolicy.0 i 3
```

▼ SPARC 起動モード設定の表示と構成

作業を開始する前に

- SPARC 起動モード設定の表示と構成には、get コマンドおよび set コマンドを使用できます。これらのコマンドで使用される MIB オブジェクトの説明については、SUN-ILOM-CONTROL MIB を参照してください。

次の手順に従って、SPARC 起動モード設定を表示および構成します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress
```

```
Password: password
```

2. 次に示す各 SNMP コマンドの例を参照してください。

- ホストの起動モードの状態を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCBootModeState.0
```

- 現在の NVRAM 変数設定を維持するようにホストを設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCBootModeState.0 i 1
```

- 起動モードの状態がスクリプトに設定されている場合に使用するブートスクリプトを表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCBootModeScript.0
```

- 起動モードの状態が「setenv diag-switch」に設定されている場合に使用するブートスクリプトを指定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCBootModeScript.0 s 'setenv diag-switch'
```

- 起動モード設定の期限が切れる日時を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCBootModeExpires.0
```

- LDOM 構成の名前を参照する文字列を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCBootModeLDOMConfig.0
```

- LDOM 構成の名前をデフォルトに設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCBootModeLDOMConfig.0 s default
```

▼ SPARC キースイッチ設定の表示と構成

作業を開始する前に

- SPARC キースイッチ設定の表示と構成には、`get` コマンドおよび `set` コマンドを使用できます。これらのコマンドで使用される MIB オブジェクトの説明については、SUN-ILOM-CONTROL MIB を参照してください。

次の手順に従って、SPARC キースイッチ設定を表示および構成します。

1. SNMP ツールおよび ILOM MIB がインストールされているホストにログインします。たとえば、次のように入力します。

```
ssh username@snmp_manager_ipaddress  
Password: password
```

2. 次に示す各 SNMP コマンドの例を参照してください。

- 仮想キースイッチの現在の状態を表示するには、次のように入力します。

```
% snmpget -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCKeySwitchState.0
```

- 仮想キースイッチの状態を「standby (スタンバイ)」に設定するには、次のように入力します。

```
% snmpset -mALL -v2c -cprivate SNMP_agent_ipaddress  
ilomCtrlSPARCKeySwitchState.0 i 2
```


パート II IPMI

このガイドのパート II では、Intelligent Platform Management Interface (IPMI) の概要を紹介し、ILOM の機能へのアクセス手順について説明します。

第9章

IPMI の概要

項目

説明	リンク
IPMI について	<ul style="list-style-type: none">• 130 ページの「インテリジェントプラットフォーム管理インタフェースについて」
IPMI の状態の設定方法および IPMItool の使用方法について	<ul style="list-style-type: none">• 132 ページの「IPMI の状態の設定」• 135 ページの「IPMItool の例」
IPMI コマンドについて	<ul style="list-style-type: none">• 140 ページの「IPMI コマンド」

関連項目

ILOM に関する項目	節	ガイド
• 概念	• ILOM の概要	『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』
• CLI	• CLI の概要	『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 CLI 手順ガイド』
• Web インタフェース	• Web インタフェースの概要	『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Web Interface 手順ガイド』
• SNMP	• SNMP の概要	『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 SNMP および IPMI 手順ガイド』

ILOM 3.0 の各種マニュアルは、
<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/> で入手できます。

インテリジェントプラットフォーム管理 インタフェースについて

ILOM はインテリジェントプラットフォーム管理インタフェース (Intelligent Platform Management Interface、IPMI) をサポートしており、サーバプラットフォームに関する情報を取得するだけでなく、サーバプラットフォームを監視および制御することができます。

IPMI は、さまざまな種類のネットワークを構成するサーバシステムを管理するために設計されたオープンな業界標準インタフェースです。IPMI の機能には、現場交換可能ユニット (FRU) インベントリのレポート、システム監視、システムイベントのロギング、システム復旧 (システムのリセットと電源の投入および切断も含む)、警告などがあります。

ユーザーは、IPMI により提供される監視、ロギング、システム復旧、および警告機能を使用して、プラットフォームハードウェアに組み込まれた管理機能にアクセスできます。

ILOM は IPMI の v1.5 と v2.0 に準拠しています。

IPMItool の Windows ポートが次のサイトから入手できます。
<http://www.sun.com/system-management/tools.jsp>

IPMI に関する詳細な仕様などの追加情報は、次のサイトから入手できます。

- <http://www.intel.com/design/servers/ipmi/spec.htm>
- <http://openipmi.sourceforge.net>

サーバまたはサーバモジュール (ブレード) 上のサービスプロセッサ (Service Processor、SP) は、IPMI v2.0 に準拠しています。IPMI の機能には、帯域内 (サーバ上で実行中のホストオペレーティングシステムを使用) または帯域外 (リモートシステムを使用) のいずれかの IPMItool ユーティリティを使用してコマンド行からアクセスできます。また、ILOM Web インタフェースから IPMI 固有のトラップを生成したり、IPMI v1.5 または v2.0 に準拠した外部の管理ソリューションから SP の IPMI 機能を管理することもできます。

IPMItool

IPMItool は、IPMI に対応したデバイスの管理および構成に役立つ、オープンソースの簡単なコマンド行インタフェース (Command-Line Interface、CLI) ユーティリティです。ローカルとリモートのどちらのシステムの IPMI 機能を管理するのにも、IPMItool を使用することができます。IPMItool ユーティリティは、カーネルデバイスドライバまたは LAN インタフェースで IPMI 機能を実行する場合に使用できます。IPMItool は次のサイトからダウンロードできます。

<http://ipmitool.sourceforge.net/>

IPMItool を使用して、次の処理を実行できます。

- センサーデータレコード (Sensor Data Record、SDR) リポジトリの読み取り
- センサー値の出力
- システムイベントログ (System Event Log、SEL) の内容の表示
- 現場交換可能ユニット (Field-Replaceable Unit、FRU) のインベントリ情報の出力
- LAN 設定パラメータの読み取りと設定
- リモートシャーシ電源制御の実行

IPMItool の詳細は、次のサイトから入手可能なマニュアルページで提供されています。

<http://ipmitool.sourceforge.net/manpage.html>

IPMItool では、ILOM CLI コマンドを直接使用するのとまったく同じ感覚で、ILOM コマンド行インタフェース (Command-Line Interface、CLI) コマンドを入力できます。CLI コマンドをスクリプト化して、そのスクリプトを複数の SP インスタンスで実行できます。

IPMI 警告

ILOM では、IPMI Platform Event Trap (PET) 形式の警告をサポートしています。警告では、発生する可能性のあるシステムの障害を事前に報告します。警告の構成は、サーバまたはサーバモジュールの ILOM SP から実行できます。IPMI PET 警告は、ILOM を使用しているすべてのサーバプラットフォームでサポートされ、シャーシ監視モジュール (Chassis Monitoring Module、CMM) ではサポートされません。IPMI による警告の種類の詳細については、『Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 概念ガイド』の「警告管理」を参照してください。

IPMI の状態の設定

IPMI の状態は、CLI インタフェースまたは Web インタフェースのいずれからでも有効と無効を切り替えることができます。

項目	
説明	リンク
IPMI の状態の有効化	<ul style="list-style-type: none">• 132 ページの「CLI を使用した IPMI の状態の有効化」• 133 ページの「Web インタフェースを使用した IPMI の状態の有効化」

▼ CLI を使用した IPMI の状態の有効化

作業を開始する前に

- CLI を使用して IPMI の状態を有効にするには、管理者 (a) 役割を有効にする必要があります。

次の手順に従って、IPMI の状態を有効にします。

1. ILOM の CLI にログインします。
2. コマンドプロンプトで、次のように入力します。

```
-> set /SP/services/ipmi servicestate=enabled
```

```
-> set /SP/services/ipmi servicestate=enabled
Set 'servicestate' to 'enabled'
```

▼ Web インタフェースを使用した IPMI の状態の有効化

作業を開始する前に

- Web インタフェースを使用して IPMI の状態を有効にするには、Admin (a) 役割を有効にする必要があります。

次の手順に従って、IPMI の状態を有効にします。

1. ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「Configuration」 --> 「System Management Access」 --> 「IPMI」の順に選択します。
「IPMI Settings」ページが表示されます。
3. チェックボックスをクリックして、IPMI の状態を有効または無効にします。

IPMItool を使用した ILOM CLI コマンドの実行

IPMItool では、ILOM CLI を直接使用するのと同まったく同じ感覚で ILOM CLI コマンドを入力できます。このツールでは、ほとんどの ILOM CLI コマンドがサポートされます。

項目

説明	リンク
IPMItool を使用した CLI コマンドの実行	<ul style="list-style-type: none">• 134 ページの「IPMItool からの ILOM CLI へのアクセス」• 134 ページの「IPMItool を使用した ILOM CLI コマンドのスク립ト化」

作業を開始する前に

ipmitool を介して ILOM CLI を使用するには、ipmitool バージョン 1.8.9.4 以降を使用する必要があります。ipmitool のバージョン番号を調べるには、ipmitool -V と入力します。

▼ IPMItool からの ILOM CLI へのアクセス

1. IPMItool を使用して ILOM CLI を有効にするには、次のように入力します。
`# ipmitool -H hostname -U username -P userpassword sunoem cli`
ILOM CLI プロンプトが、次のように表示されます。

```
Connected. Use ^D to exit.  
->
```

2. CLI を使用するために、各 CLI コマンドを入力します。

▼ IPMItool を使用した ILOM CLI コマンドのスク립ト化

IPMItool から ILOM CLI を使用することの主な利点は、CLI コマンドをスク립ト化してそのスク립トを複数の SP インスタンスで実行できる点です。スク립ト化が可能なのは、IPMItool コマンド行に CLI コマンドを含めることができるためです。このコマンド行では、各行のそれぞれの引数が独立した ILOM CLI コマンドとして処理されます。コマンドは、各 ILOM CLI コマンドの先頭と末尾に二重引用符 (") を付けて区切ります。次の例では、ipmitool コマンド行に、2 つの CLI コマンドを挿入する方法を示しています。例で各 ILOM CLI コマンドの先頭と末尾に二重引用符 (") が付けられていることに注意してください。

```
# ipmitool -H hostname -U username -P userpassword sunoem cli "show  
/SP/services" "show /SP/logs"  
Connected. Use ^D to exit.  
-> show /SP/services  
/SP/services  
  Targets:  
    http  
    https  
    servicetag  
    snmp  
    ssh  
    sso  
  
  Properties:  
  
  Commands:  
    cd  
    show
```

```
-> show /SP/logs
/SP/logs
  Targets:
    event

  Properties:

  Commands:
    cd
    show

->Session closed
Disconnected
```

IPMItool の例

項目

説明	リンク
IPMItool を使用してさまざまな機能を実行します。	<ul style="list-style-type: none">• 136 ページの「センサーとその値の一覧を表示する」• 137 ページの「1 つのセンサーの詳細を表示する」• 137 ページの「ホストの電源を入れる」• 137 ページの「ホストの電源を切る」• 137 ページの「ホストの電源を再投入する」• 137 ページの「ホストを正常に停止する」• 138 ページの「FRU の製造情報を表示する」• 139 ページの「システムイベントログを表示する」

▼ センサーとその値の一覧を表示する

```
$ ipmitool -H 1.2.3.4 -I lanplus -U username -P userpassword sdr list
/SYS/T_AMB | 24 degrees C | ok
/RFM0/FAN1_SPEED | 7110 RPM | ok
/RFM0/FAN2_SPEED | 5880 RPM | ok
/RFM1/FAN1_SPEED | 5880 RPM | ok
/RFM1/FAN2_SPEED | 6360 RPM | ok
/RFM2/FAN1_SPEED | 5610 RPM | ok
/RFM2/FAN2_SPEED | 6510 RPM | ok
/RFM3/FAN1_SPEED | 6000 RPM | ok
/RFM3/FAN2_SPEED | 7110 RPM | ok
/RFM4/FAN1_SPEED | 6360 RPM | ok
/RFM4/FAN2_SPEED | 5610 RPM | ok
/RFM5/FAN1_SPEED | 5640 RPM | ok
/RFM5/FAN2_SPEED | 6510 RPM | ok
/RFM6/FAN1_SPEED | 6180 RPM | ok
/RFM6/FAN2_SPEED | 6000 RPM | ok
/RFM7/FAN1_SPEED | 6330 RPM | ok
/RFM7/FAN2_SPEED | 6330 RPM | ok
/RFM8/FAN1_SPEED | 6510 RPM | ok
/RFM8/FAN2_SPEED | 5610 RPM | ok
```

注 - ipmitool が、コマンド行へのパスワードの入力を可能にする -P オプションをサポートするように設定されていない場合は、パスワードの入力を要求するメッセージが表示されます。

注 - 上記の出力は、省略されています。実際の出力では 163 個のセンサーが表示されます。

▼ 1 つのセンサーの詳細を表示する

```
$ ipmitool -H 1.2.3.4 -v -I lanplus -U username -P userpassword sensor get /SYS/T_AMB
Locating sensor record...
Sensor ID          : /SYS/T_AMB (0x8)
Entity ID         : 41.0
Sensor Type (Analog) : Temperature
Sensor Reading    : 24 (+/- 0) degrees C
Status           : ok
Lower Non-Recoverable : 0.000
Lower Critical     : 4.000
Lower Non-Critical  : 10.000
Upper Non-Critical  : 35.000
Upper Critical     : 40.000
Upper Non-Recoverable : 45.000
Assertions Enabled  : lnc- lcr- lnr- unc+ ucr+ unr+
Deassertions Enabled : lnc- lcr- lnr- unc+ ucr+ unr+
```

▼ ホストの電源を入れる

```
$ ipmitool -H 1.2.3.4 -v -I lanplus -U username -P userpassword chassis power on
```

▼ ホストの電源を切る

```
$ ipmitool -H 1.2.3.4 -v -I lanplus -U username -P userpassword chassis power off
```

▼ ホストの電源を再投入する

```
$ ipmitool -H 1.2.3.4 -v -I lanplus -U username -P userpassword chassis power cycle
```

▼ ホストを正常に停止する

```
$ ipmitool -H 1.2.3.4 -v -I lanplus -U username -P userpassword chassis power soft
```

▼ FRU の製造情報を表示する

```
$ ipmitool -H 1.2.3.4 -v -I lanplus -U username -P userpassword fru print
```

```
FRU Device Description : Builtin FRU Device (ID 0)
Board Product          : ASSY,ANDY,4SKT_PCI-E,BLADE
Board Serial           : 0000000-7001
Board Part Number      : 501-7738-01
Board Extra            : AXX_RevE_Blade
Product Manufacturer   : SUN MICROSYSTEMS
Product Name           : ILOM

FRU Device Description : /SYS (ID 4)
Chassis Type           : Rack Mount Chassis
Chassis Part Number    : 541-0251-05
Chassis Serial         : 00:03:BA:CD:59:6F
Board Product          : ASSY,ANDY,4SKT_PCI-E,BLADE
Board Serial           : 0000000-7001
Board Part Number      : 501-7738-01
Board Extra            : AXX_RevE_Blade
Product Manufacturer   : SUN MICROSYSTEMS
Product Name           : SUN BLADE X8400 SERVER MODULE
Product Part Number    : 602-0000-00
Product Serial         : 0000000000
Product Extra          : 080020ffffffffffffffff0003baf15c5a

FRU Device Description : /P0 (ID 5)
Product Manufacturer   : ADVANCED MICRO DEVICES
Product Part Number    : 0F21
Product Version        : 2

FRU Device Description : /P0/D0 (ID 6)
Product Manufacturer   : MICRON TECHNOLOGY
Product Name           : 1024MB DDR 400 (PC3200) ECC
Product Part Number    : 18VDDF12872Y-40BD3
Product Version        : 0300
Product Serial         : D50209DA
Product Extra          : 0190
Product Extra          : 0400

FRU Device Description : /P0/D1 (ID 7)
Product Manufacturer   : MICRON TECHNOLOGY
Product Name           : 1024MB DDR 400 (PC3200) ECC
Product Part Number    : 18VDDF12872Y-40BD3
Product Version        : 0300
Product Serial         : D50209DE
Product Extra          : 0190
Product Extra          : 0400
```

▼ システムイベントログを表示する

```
$ ipmitool -H 1.2.3.4 -I lanplus -U username -P userpassword sel list
100 | Pre-Init Time-stamp | Power Unit #0x78 | State Deasserted
200 | Pre-Init Time-stamp | Power Supply #0xa2 | Predictive Failure Asserted
300 | Pre-Init Time-stamp | Power Supply #0xba | Predictive Failure Asserted
400 | Pre-Init Time-stamp | Power Supply #0xc0 | Predictive Failure Asserted
500 | Pre-Init Time-stamp | Power Supply #0xb4 | Predictive Failure Asserted
600 | 04/05/2007 | 12:03:24 | Power Supply #0xa3 | Predictive Failure Deasserted
700 | 04/05/2007 | 12:03:25 | Power Supply #0xaa | Predictive Failure Deasserted
800 | 04/05/2007 | 12:03:25 | Power Supply #0xbc | Predictive Failure Deasserted
900 | 04/05/2007 | 12:03:26 | Power Supply #0xa2 | Predictive Failure Asserted
a00 | 04/05/2007 | 12:03:26 | Power Supply #0xa8 | Predictive Failure Deasserted
b00 | 04/05/2007 | 12:03:26 | Power Supply #0xb6 | Predictive Failure Deasserted
c00 | 04/05/2007 | 12:03:26 | Power Supply #0xbb | Predictive Failure Deasserted
d00 | 04/05/2007 | 12:03:26 | Power Supply #0xc2 | Predictive Failure Deasserted
e00 | 04/05/2007 | 12:03:27 | Power Supply #0xb0 | Predictive Failure Deasserted
f00 | 04/05/2007 | 12:03:27 | Power Supply #0xb5 | Predictive Failure Deasserted
1000 | 04/05/2007 | 12:03:27 | Power Supply #0xba | Predictive Failure Asserted
1100 | 04/05/2007 | 12:03:27 | Power Supply #0xc0 | Predictive Failure Asserted
1200 | 04/05/2007 | 12:03:28 | Power Supply #0xa9 | Predictive Failure Deasserted
1300 | 04/05/2007 | 12:03:28 | Power Supply #0xae | Predictive Failure Deasserted
1400 | 04/05/2007 | 12:03:28 | Power Supply #0xb4 | Predictive Failure Asserted
1500 | 04/05/2007 | 12:03:28 | Power Supply #0xbe | Predictive Failure Deasserted
```

IPMI コマンド

IPMItool ユーティリティは、次の Web サイトからダウンロードできます。

<http://ipmitool.sourceforge.net/>

IPMItool パッケージをインストールすると、インストールされたマニュアルページからコマンドの使用法および構文に関する詳細情報にアクセスできます。次の表では、使用できる IPMItool コマンドを簡単に説明します。

表 9-1 IPMItool コマンド

IPMI コマンド	機能
<code>sunoem sshkey set</code>	リモートシェルユーザー用の SSH 鍵を設定します。
<code>ipmitool sunoem sshkey del</code>	リモートシェルユーザーの SSH 鍵を削除します。
<code>ipmitool sunoem led get</code>	LED ステータスを読み取ります。
<code>ipmitool sunoem led set</code>	LED ステータスを設定します。
<code>ipmitool sunoem cli</code>	ILOM CLI コマンドを、ILOM CLI を直接使用するのと同じ感覚で入力します。LAN/LANplus インタフェースを使用する必要があります。
<code>ipmitool raw</code>	IPMI コマンドをそのままの状態で行います。
<code>ipmitool lan print</code>	任意のチャンネルの現在の構成を出力します。
<code>ipmitool lan set (1) (2)</code>	特定のチャンネルの特定のパラメータを設定します。
<code>ipmitool chassis status</code>	システムシャーシおよび主電源サブシステムのハイレベルステータスに関する情報を表示します。
<code>ipmitool chassis power</code>	シャーシの制御コマンドを実行して、電源の状態を表示および変更します。
<code>ipmitool chassis identify</code>	フロントパネルの識別ランプを制御します。デフォルト値は、15 です。消灯する場合は、0 (ゼロ) を指定します。
<code>ipmitool chassis restart_cause</code>	最後にシステムが再起動したときの原因を調べるため、シャーシにクエリーを送信します。
<code>ipmitool chassis poh</code>	Power-On Hours カウンタを表示します。
<code>ipmitool chassis bootdev (1)</code>	次の再起動時に、代わりにのブートデバイスから起動するようにシステムに要求します。
<code>ipmitool chassis bootparam (1)</code>	ホストのブートパラメータを設定します。

表 9-1 IPMItool コマンド (続き)

IPMI コマンド	機能
<code>ipmitool chassis selftest</code>	BMC の自己診断テストの結果を表示します。
<code>ipmitool power</code>	BMC の自己診断テストの結果を返します。
<code>ipmitool event</code>	定義済みのイベントをシステムイベントログに送信します。
<code>ipmitool mc (1) (2)</code>	ウォームリセットまたはコールドリセットするように BMC に指示します。
<code>ipmitool sdr</code>	BMC にセンサーデータレコード (SDR) の内容を問い合わせ、指定されたタイプのセンサー情報を抽出します。次に各センサーに問い合わせ、その名前、読み取り値、およびステータスを出力します。
<code>ipmitool sensor</code>	幅広い書式の表を用意し、センサーとしきい値を一覧表示します。
<code>ipmitool fru print</code>	すべての現場交換可能ユニット (FRU) のインベントリデータを読み取り、シリアル番号、部品番号、資産タグ、さらにはシャーシ、ボード、製品についての簡単な説明といった情報を抽出します。
<code>ipmitool sel</code>	ILOM SP のシステムイベントログ (SEL) を表示します。
<code>ipmitool pef info</code>	BMC に問い合わせ、PEF がサポートする機能に関する情報を出力します。
<code>ipmitool pef status</code>	現在の PEF ステータス (BMC が最後に処理した SEL エントリなど) を出力します。
<code>ipmitool pef list</code>	現在の PEF ステータス (BMC が最後に処理した SEL エントリなど) を出力します。
<code>ipmitool user</code>	ユーザー ID の最大数、有効になっているユーザーの数、定義済みの固定名の数など、ユーザー ID に関する情報を簡単にまとめて表示します。
<code>ipmitool session</code>	指定したセッションに関する情報を取得します。セッションは、セッションの ID、ハンドル番号、およびアクティブステータスで識別できます。また、キーワード「all」を使用してすべてのセッションを指定することもできます。
<code>ipmitool firewall (1)</code>	個々のコマンドおよびコマンドのサブ機能の有効と無効を切り替えます。指定された実装で設定できるコマンドおよびコマンドのサブ機能を確認できます。
<code>ipmitool set (1)</code>	セッションのホスト名、ユーザー名、パスワード、権限レベルなどの、実行時オプションを設定します。
<code>ipmitool exec</code>	ファイル名から IPMItool コマンドを実行します。各行が、完全なコマンドになっています。

索引

A

- Active Directory, 35
 - DNS ロケータの設定
 - MIB オブジェクト, 53
 - 表示と構成, 52
 - オペレータグループ
 - MIB オブジェクト, 42
 - 表示と構成, 41
 - カスタムグループ
 - MIB オブジェクト, 44
 - 表示と構成, 43
 - ユーザードメイン
 - MIB オブジェクト, 46
 - 表示と構成, 45
 - 管理者グループ
 - MIB オブジェクト, 41
 - 表示と構成, 40
 - 代替サーバ
 - MIB オブジェクト, 50
 - 表示と構成, 47

B

- backup and restore, 112

H

- HTTP および HTTPS
 - MIB オブジェクト, 20
- HTTP および HTTPS の設定
 - 表示と構成, 19

I

- IP アドレス
 - MIB オブジェクト, 21
 - 設定, 20
- IPMI
 - ILOM にサポートされているバージョン, 130
 - IPMI Platform Event Trap (PET) 警告, 131
 - IPMI 固有のトラップを生成, 130
 - 概要, 130
 - 機能, 130
 - 詳細な仕様
 - 場所, 130
- IPMItool
 - CLI コマンドのスク립ト化, 134
 - CLI コマンドの実行, 133
 - FRU の製造情報の表示, 138
 - IPMItool の使用, 131
 - 機能, 131
 - 参照先, 131
 - システムイベントログの表示, 139
 - ダウンロード可能なサイト
 - 場所, 131
 - マニュアルページの場所, 131

L

- LDAP, 55
 - MIB オブジェクト, 58
 - 設定, 56

LDAP/SSL, 60

- オペレータグループ
 - MIB オブジェクト, 67
 - 表示と構成, 66
- カスタムグループ
 - MIB オブジェクト, 69
 - 表示と構成, 68
- ユーザードメイン
 - MIB オブジェクト, 71
 - 表示と構成, 70
- 管理者グループ
 - MIB オブジェクト, 66
 - 表示と構成, 65
- 証明書設定, 64
- 代替サーバ
 - MIB オブジェクト, 74
 - 表示と構成, 72

M

- MIB オブジェクト
 - ユーザーアカウント, 32

N

- Net-SNMP
 - Web サイト, 2

R

- RADIUS
 - MIB オブジェクト, 77
 - 設定, 75

S

- Secure Shell (SSH) 設定
 - MIB object, 26
 - 設定, 25
- SMTP クライアント
 - MIB オブジェクト, 91
 - 設定, 89
- SNMP
 - ILOM のサポートに使用される MIB, 7
 - Net-SNMP
 - Web サイト, 2
 - エージェントの関数
 - サポートされているバージョン, 2

- サポートされる関数, 3
- ソフトウェアのダウンロードサイト, 3
- チュートリアル の Web サイト, 2
- ネットワーク管理ステーション, 3
 - 「SNMP」を参照
- 管理ステーションの管理, 3
- 管理対象ノード, 3
- 準備すべき事柄, 3

SPARC キースイッチ, 125

SPARC ホスト設定, 120

SPARC 起動モード, 124

SPARC 診断, 117

SSH サーバ

- MIB object, 27
- 再起動, 27

SSH 鍵

- MIB オブジェクト, 27
- 生成, 26

い

- イベントログ
 - MIB オブジェクト, 85
 - 設定, 84

え

- 遠隔 syslog 受信側の IP アドレス
 - MIB オブジェクト, 86
 - 設定, 86
- 遠隔測定ハルネスデーモン (THD)
 - 設定, 92

か

- 管理情報ベース (MIB)
 - ILOM がサポートする標準 MIB, 7
 - MIB ツリー, 5
 - 定義管理情報ベース (MIB)
 - MIB ツリー, 4

く

- クロック設定
 - MIB オブジェクト, 83
 - Network Time Protocol (NTP) の設定, 82
 - 設定, 82

け

警告

電子メール通知の生成, 89

警告ルール

MIB オブジェクト, 88

設定, 87

現在の鍵および鍵長

MIB オブジェクト, 25

設定, 24

し

システム識別子 MIB オブジェクト, 12

システム識別子設定, 11

冗長設定

表示と構成, 51

消費電力の管理

許容電力の監視

snmpget コマンド, 99

使用可能な電力の監視

snmpget コマンド, 99

電力監視

snmpget コマンド, 97

電力の監視

snmpget コマンド, 97

電力ポリシーの表示と設定

SNMP コマンド, 101

snmpget コマンドを使用した個々の電源装置の

消費電力の監視, 97

シリアルポート

MIB 設定, 18

設定, 17

シングルサインオン

MIB object, 34

概要, 33

使用可能への切り替え, 33

設定, 33

せ

製品識別インタフェース, xii

て

電源消費管理

entPhysicalName MIB オブジェクト, 97

sunPlatNumericSensor MIB オブジェクト, 97

電子メール警告の設定

設定, 91

ね

ネットワーク設定

MIB オブジェクト, 15

設定, 10

ふ

ファームウェア

表示と構成, 104

部品情報

MIB オブジェクト, 81

表示, 80

ほ

ホスト名 MIB オブジェクト, 12

ホスト名設定, 11

ポリシー設定

表示と構成, 111

ゆ

ユーザーアカウント, 31


FUJITSU